

構

造

概

要

1. 一般事項

1. 1 建物概要

工事名称

羽曳野市旧浅野住宅 長屋門・蔵

建設予定地

大阪府羽曳野市

建物用途

意匠図による

面積

建築面積 意匠図による 延べ面積 意匠図による

階数

地上 1 階 地下 0 階 塔屋 0 階

高さ

軒高 意匠図による 最高高さ 意匠図による

構造種別

木造

1. 2 適要図書

当工事の建築工事にに関する見積および施工については下記の図書を適用する

1 当工事設計図

2 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書」（最新版）

3 日本建築学会標準仕様書・同解説（最新版）

JASS1：一般共通事項

JASS6：鉄骨工事

JASS3：土工事及び山留工事

JASS7：コンクリートﾌﾟﾛｯｸ工事

JASS4：地盤及び基礎ｽﾀｯﾄﾞ工事

JASS18：塗装工事

JASS5：鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ工事

4 日本建築学会規準および指針

5

6

7

2. 地業工事

2. 1 割栗地業

敷砂利使用範囲

基礎・基礎梁下 土間コン下

敷砂利厚さ

㊦ 100 ㊦ 100

均しコンクリート設計基準強度

Fc18N

均しコンクリート厚さ

㊦ 50

土間コンクリート設計基準強度

Fc18N

土間コンクリート厚さ

㊦ 150

2. 2 設計地盤支持力

地盤設計許容支持力

Lfe= 50 kN/m²（推定地耐力）

支持地盤の深さ

GL-0.30m

2. 3 既製杭

杭長及び先端位置は地盤状況、杭打試験、載荷試験により変更することがある

杭の種類、工法

継手

先端形状

杭支持力（長期）

杭の支持力試験 有 無

杭打試験は原則として行い、図示又は係員の指示に従う。

杭径

杭長

杭の先端位置

2. 4 場所打コンクリート杭

工法

コンクリートの設計基準強度

鉄筋の材質

杭径

杭長

杭の先端位置

2. 5 試験・検査

項目

適用

備考

平板載荷試験
（杭載荷試験、試験杭）

試験杭

標準貫入試験

3. 鉄筋コンクリート工事

3. 1 コンクリート

使用区分

種別

設計基準強度
Fc (N/mm2)

品質基準強度
Fq (N/mm2)

スランプ
(cm)

水セメント比の
最大値 (%)

単位セメント量の
最小値 (kg/m3)

基礎、基礎梁

普通

21

24

15

55

270

■コンクリートの骨材、水及び混和材料の種類
(1) 骨材 砂利及び砂は JIS A5308による。 細骨材：砕砂、山砂 粗骨材：砕石
(2) 水 水は JIS A5308による。 使用水：工業用水
(3) 混和材料 JIS A6204によるAE減水剤
■コンクリートの施工
コンクリートは JIS認定工場の製品とし、施工に関しては JASS5(2009) による。
■コンクリートの強度試験方法
構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体(JISS5T-603)は、現場水中養生又は現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。
又、打ち込み量が150㎥ごと又は、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。尚、供試体の数量は特別指示がなき場合は、1回当り6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。
■コンクリートの調合
調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ることとする。
工事によるコンクリートの単位水量は、特記仕様書による。但し、困難な場合は、高性能AE減水剤等を使用し、極力目標値に近づける。
高性能AE減水剤を使用する場合は、以下の事項を実施することとする。
・レディーミクスコンクリート工場及びメーカーと設計仕様、高性能AE減水剤の種類等の打ち合せを行う。
・調合計画書を作成し、単位水量、水セメント比等の確認を行う。
・生コン工場に実績がない場合は、試験練を行い、フレッシュコンクリート及び硬質コンクリートの性能の確認を行う。
・試験練後、実機試験を行い、スランプ・空気量の経時変化、押え時期等の確認を行う。
■コンクリートの養生方法
・寒冷地においては、コンクリートを寒気から保護し、打込後5日間以上コンクリート温度を2℃ 以上に保つ。
・鉄筋に沿って沈みひび割れが発生した場合は、再度コテで押え、ダンピング処理を行う。又高性能AE減水剤を使用したコンクリートの場合は、フリージング量の減少による初期乾燥ひび割れに注意する。
・打設完了後に現場を巡回し、ふきこぼれ等に注意する。
・打設後散水などにより、5日間以上湿潤に保つ。
・供試体を現場水中養生にて保管する場合、現場内の水槽は、直射日光が当たらないように、日除けカバーをする。
■型枠、型枠の取り外し時期
型枠の施工に関しては JASS5(2009) により、型枠の取り外し最小時期は下図による。
表 型枠存置期間

型枠
セメント
コンクリートの
圧縮強度

基礎、梁側、柱、壁

スラブ下、梁下

スラブ下

梁下

15℃以上

5～15℃

5℃未満

コンクリートの
圧縮強度

2

3

4

6

8

1.7

2.8

5

6

1.0

1.8

1.5

2.8

2.8

2.8

5 N/mm²

設計基準強度の50%

設計基準強度の
85%

100%

■型枠の取り外し方法
施工に関しては JASS5(2009) によるが、その中で注意すべき点を以下に示す。
・片持ち梁、底、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
・大梁の支柱の盛りかえは行わない。又、その他の梁の場合も原則として行わない。
・支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
・盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材又は、これに代わるものを置く。
・支柱の盛りかえは、小梁が終わってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
・表「型枠存置期間」以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

3. 2 鉄筋

註：圧接は「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」（社）日本圧接協会 に依る。

材 質

鉄 筋 径

継手形式

定着工法

SD295A

D10～D13

■ 重ね継手

■ 一般工法

SD345

SD390

SD490

3. 3 試験、検査

ウルボン1275

3. 3 試験、検査

項目

適用

備考

スランプ、空気量〔荷卸〕

○

気乾単位容積重量

荷卸地点における品質検査

○

ミルシート

○

鉄筋引張試験

圧接工、技量試験

圧接部超音波探傷検査

○

4. 鉄骨工事

註：鉄骨工事は指示のない限り下記に依る。
日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」

4. 1 鋼材

材 質

部 位

備 考

SS400

大梁、小梁、鋼板類ほか

JIS G3101 規格品

SM490A

JIS G3106 規格品

SSC400

胴縁

JIS G3350 規格品

STKR400

JIS G3466 規格品

BCR295

柱

国土交通大臣認定品 MSTL-0142

SN490C

ベースプレート、ダイアフラム

JIS G3136 規格品

4. 2 接合材

名 称

材 質

径

備 考

HTB

S10T

M16, M20

トルシア形高力ボルト
国土交通大臣認定品 MBLT-0059

F8T

M20

F8T：溶融亜鉛メッキ高力ボルト

A.BOLT

ABR400

M20, M24

JSSⅡ13-2004

SS400

M16

JIS B1220 規格品

中ボルト

SS400

M12

JIS B1221 規格品

JIS B1180 規格品

ターンバックル

SS400

M16, M20

JIS A5540 規格品

スタッドボルト

JIS B1198 規格品

註：高力ボルト摩擦面のすべり係数値は0.45以上とする。

4. 3 防錆塗装

素地調整

種

C種

部 位

防錆塗装の種類

屋 内

JISK-5621(B種)

工場1回、現場1回

註：素地調整の工程は日本建築学会「鉄骨工事技術指針、同解説」による。

4. 4 現場継手形式

継手形式

大梁継手部

柱継手部

フランジ

ウェブ

フランジ

ウェブ

高力ボルト接合

溶 接 接 合

高力ボルト：トルシア形高力ボルト 国土交通大臣認定品 MBLT-0059

4. 5 試験、検査

項 目

適用

備 考

材料試験〔鋼材、高力ボルト、スタッド〕

溶接工技量試験〔工場、現場〕

溶接部検査

・第三者検査（CIW認定業者に依る）
超音波探傷検査
〔工場溶接部〕検査方法はJASS6に依る
〔現場溶接部〕原則として全数検査

国土交通省告示1464号
に関する溶接部の検査

・工場自主検査
超音波探傷検査（全数検査）
外観検査（全数検査）

高力ボルト現場締付検査

スタッド溶接〔品質検査、製品検査、技量試験〕

高力ボルトすべり試験

ミルシート

現寸検査、製品検査

キャリブレーターに依るピンテールボルト軸力の確認

註：（社）鉄骨建設業協会「突合せ継手の食違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」参照

鉄骨製作工場グレード □ R グレード以上 □ M グレード以上

5. 地質柱状図

調査位置図

調査項目

調査地点

隣地

孔口標高

調査年月日

平成 年 月 日

孔内水位

標尺
(m)

掘
高
(m)

深
度
(m)

土
質
記
号

色
調

土質区分

N
値

N値折線

基礎形状

10

20

30

40

50

構造：一級建築士 第344060号 構造設計一級建築士 第9920号 石倉 和浩

Project

羽曳野市旧浅野家住宅

Date

2024. 06.

Architect

Scale

—

Sheet No.

S-1

Title

長屋門・蔵
構造概要

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１．一般事項

- (１) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (２) 記号
d・・・異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 B・・・部材の成 R・・・直径
@・・・間隔 r・・・半径 Q・・・中心線 L・・・部材間の内法距離 h o・・・部材間の内法高さ
S T・・・あばら筋 H O O P・・・帯筋 S・H O O P・・・補強帯筋 φ・・・直径又は丸鋼

２．鉄筋加工、かぶり

(１) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度90°はスラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT型およびL型梁のキャップタイにのみ用いる。
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上 (※4d以上)	8d以上 (※4d以上)	
折曲げ内法寸法Rは、S R 235～S D 345の径16およびD 16以下は3d以上、S D 295～S D 345のD 19～D 38は4d以上、D 41およびS D 390は5d以上。 スラブ筋、壁筋には丸鋼は使用しない。				

(２) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所 による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ 内法寸法R
	帯 あばら筋 スパイラル筋	S R 235、S R 295 S D 295 A・B S D 345	16φ D 16 以下 19φ D 19 以上	3d以上
	上記以外の鉄筋	S D 295 A・B S D 345 S D 390	D 16 以下 D 19～D 25 D 29～D 41	4d以上 6d以上 8d以上

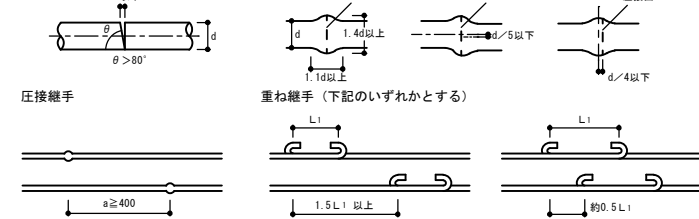
(３) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm²)	定着の長さ		特別の定着および重ね継手の長さ (L ₁)
		一般 (L ₂)	下端筋 (L ₃)	
S R 235	21. 24	35dフック付	25dフック付	35dフック付
	18以下	45dフック付	15cmフック付	45dフック付
S D 295 A S D 295 B S D 345	27～36	30d又は 20dフック付	25d又は15dフック付	35d又は 25dフック付
	21. 24	35d又は 25dフック付	25d又は15dフック付	40d又は 30dフック付
	18以下	40d又は 30dフック付	10dかつ15cm以上	45d又は 35dフック付
S D 390	27～36	35d又は 25dフック付		40d又は 30dフック付
	21. 24	40d又は 30dフック付		45d又は 35dフック付

継手

- 末端のフックは、定着及び重ね継手の長さに含まない
- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細いほうの鉄筋の継手長さとする
- D 29以上の異径鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
- 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状

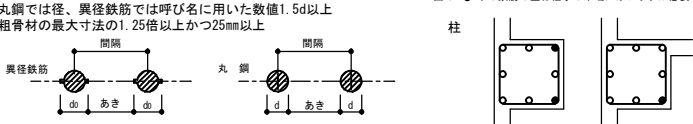


(４) かぶり厚さ (単位：mm)

部位	設計かぶり厚さ (mm)		最小かぶり厚さ (mm)
	屋根スラブ	屋内	
土に接しない部分	床スラブ	30	20
	耐力壁	40 ⁽¹⁾	30 (20)
	柱	40	30
	耐力壁	50 ⁽²⁾	40 ⁽¹⁾ (30)
土に接する部分	擁壁	50 ⁽³⁾	40
	柱・はり・床スラブ・耐力壁	50	40 ⁽⁴⁾
基礎・擁壁		70	60 ⁽⁴⁾

- 【注】 (１) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。
(２) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
(３) コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
(４) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
(５) () 内は仕上げがある場合。

(５) 鉄筋のあき



(６) 鉄筋のフック

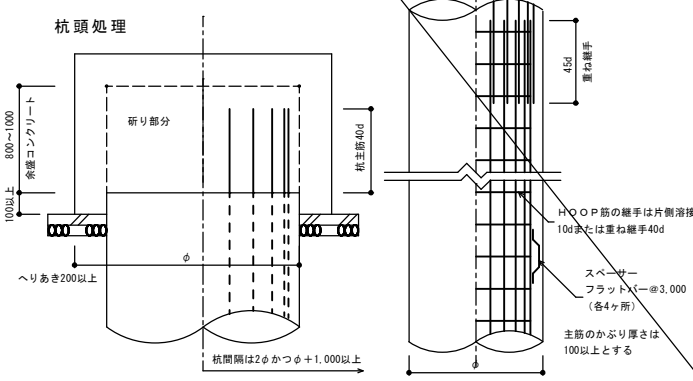
- a. 丸鋼 b. あばら筋、帯筋 c. 煙突の鉄筋
d. 柱、梁 (基礎梁は除く) の出隅部分の鉄筋 (右図参照)
e. 単独梁の下端筋
f. その他、本配筋標準に記載する箇所

３．杭 (地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること)

(１) P C 杭、又は P H C 杭の全てに補強を行う

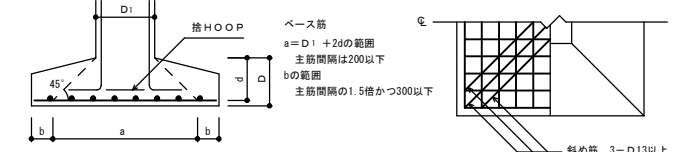
所定の位置に止まった場合		所定より低く止まった場合	
杭 径	300φ、350φ	400φ	450φ 500φ 600φ
補 強 筋	6-D 13	8-D 13	10-D 13 8-D 16 10-D 16
H O O P			D 10-@150

(２) 現場打ちコンクリート杭

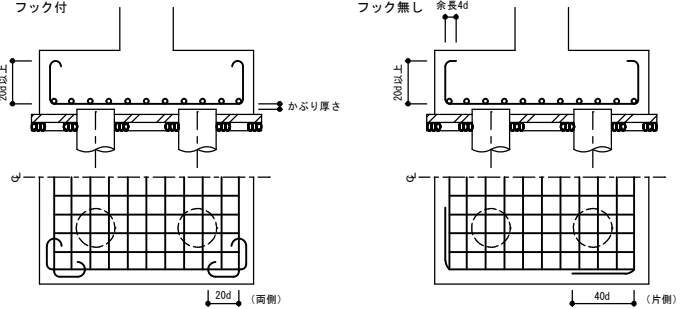


４．基礎

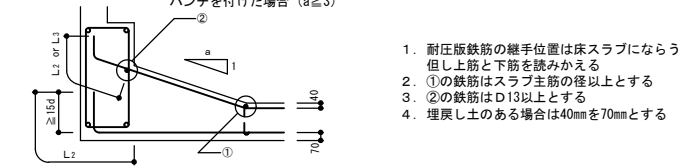
(１) 直接基礎



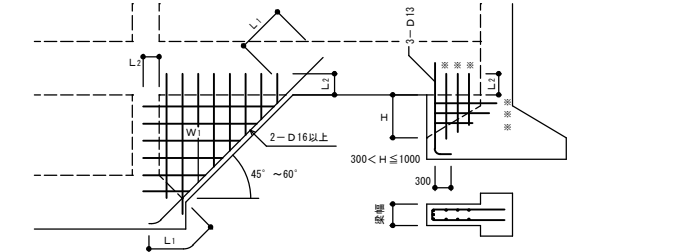
(２) 杭基礎



(３) ベタ基礎



(４) 基礎接合部の補強

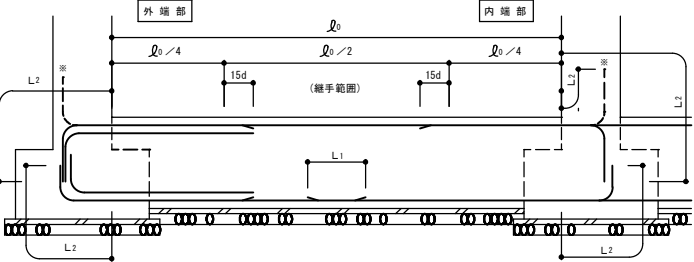


W₁ の三角壁厚さは、200mm以上又は地中梁幅とし、
配筋は同厚の壁リストにならう。

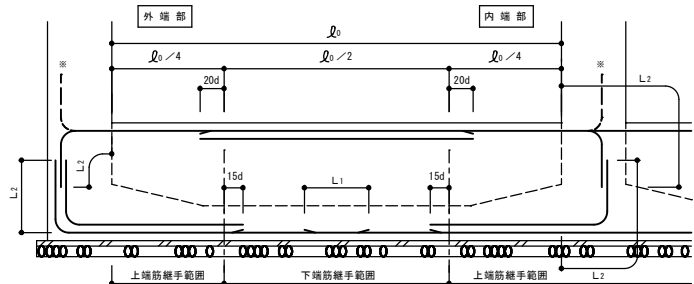
※印筋はD 10@200とする
H ≤ 300のときは、※印筋は不用とする

５．地中梁

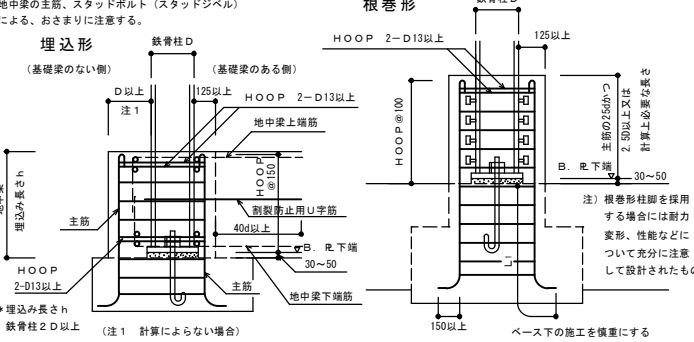
(１) 独立基礎、杭基礎の場合 (定着、継手)



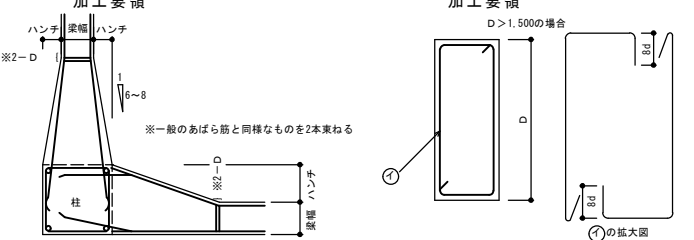
(２) 布基礎、べた基礎の場合 (定着、継手)



(３) 小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋

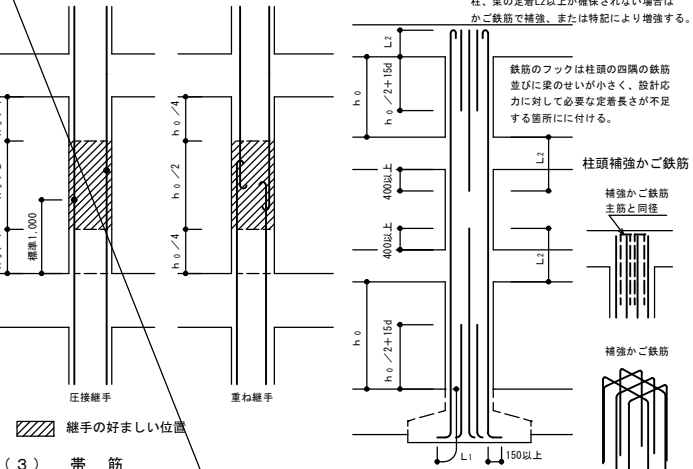


(４) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

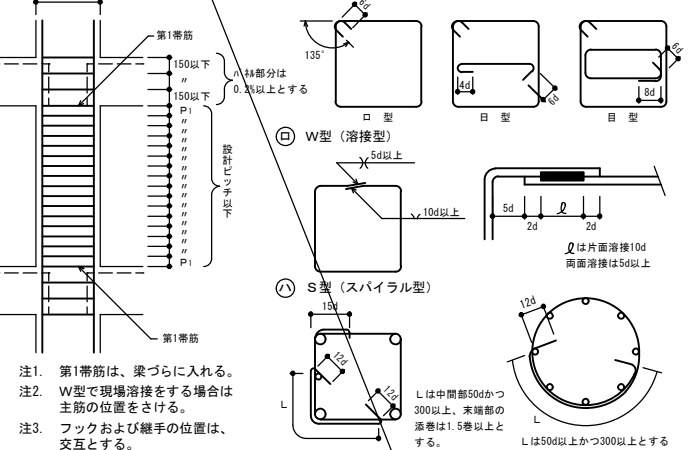


６．柱

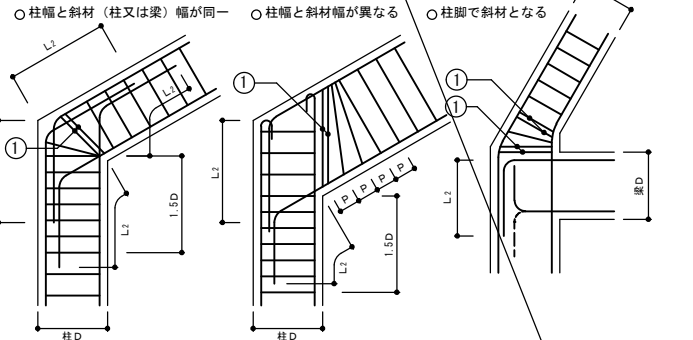
(１) 柱主筋の継手



(２) 柱主筋の定着

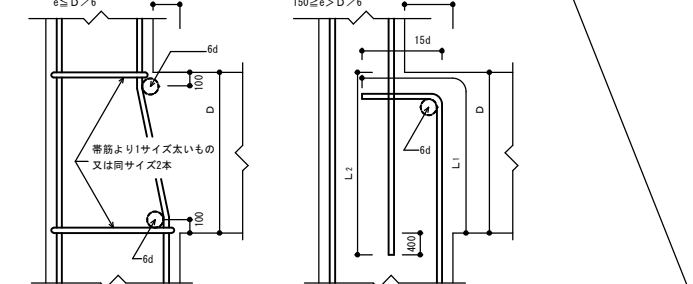


(３) 帯筋

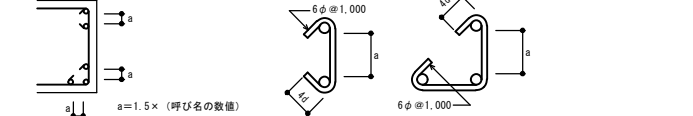


- 注1. 第1帯筋は、梁づらに入れる。
注2. W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける。
注3. フックおよび継手の位置は、交互とする。

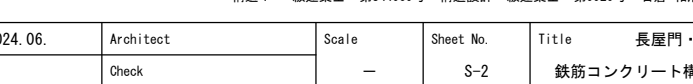
(４) 斜め柱・斜め梁



(５) 絞り



(６) 二段筋の保持



木造在来軸組工法標準納まり図（例）

1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 施工の際は本標準図の他、「木造住宅工事共通仕様書(解説付)」「(財)住宅金融普及協会」「木造軸組工法住宅 接合部の設計と金物の取付」((社)日本木造住宅産業協会)等参照のこと。
- (3) 床組 下記●印で選択した床組を適用する
- 剛な床組

○ 柔な床組

2. 金物

- (1) 使用する金物は、(財)日本住宅・木造技術センターの定める規格によるZマーク表示品または、これと同等以上のものを使用する。
- (2) 接合及び補強をするに当たっては、接合部位の納まりに適した金物を使用すること。
- (3) 接合金物の許容耐力一覧表

名 称	記 号	短期許容耐力 (kN)			使用接合具等
		べいまつ類	べいつが類	すぎ類	
太めくぎ	ZN 40	0.86	0.77	0.68	
	ZN 65	0.86	0.77	0.68	
	ZN 90	1.26	1.14	0.98	
スクリューくぎ	ZS 50	1.48	1.34	1.17	六角ボルト M12(1本)
	PB-33	11.38	10.40	10.00	
柱脚金物	PB-42	22.76	20.80	20.00	六角ボルト M12(2本)
	SM-12	1.72	1.54	1.36	太めくぎ ZN65(4本)
ひら金物	SM-40	4.30	3.85	3.40	太めくぎ ZN65(12本)
	ST-9	1.72	1.54	1.36	太めくぎ ZN40(4本)
ひねり金物	ST-12				太めくぎ ZN40(6本)
	ST-15				
	SF	2.58	2.31	2.04	
折曲げ金物	SS	5.16	4.62	4.08	六角ボルト M12(1本)
くら金物	SB-F, SB-F2	5.69	5.20	5.00	
羽子板ボルト	SB-E, SB-E2	4.30	3.85	3.40	太めくぎ ZN65(10本)
	CP-L				六角ボルト M12(2本)
かど金物	CP-T				
山形プレート	VP	5.04	4.56	3.92	太めくぎ ZN90(8本)
短ざく金物	S	5.69	5.20	5.00	六角ボルト M12(2本)
かね折り金物	SA				
かすがい	C-120	1.27	1.18	1.08	
	C-150				
	CC-120				
手違いかすがい	CC-150				
	HD-B10	11.38	10.40	10.00	六角ボルト M12(2本)
	S-HD10				又はラグスクリューLS12(2本)
引き寄せ金物	HD-B15	17.07	15.60	15.00	六角ボルト M12(3本)
	S-HD15				又はラグスクリューLS12(3本)
	HD-B20	22.76	20.80	20.00	六角ボルト M12(4本)
	S-HD20				又はラグスクリューLS12(4本)
	HD-B25	28.45	26.00	25.00	六角ボルト M12(5本)
	S-HD25				又はラグスクリューLS12(5本)
	HD-N5	7.56	6.84	5.88	太めくぎ ZN90(6本)
	HD-N10	12.60	11.40	9.80	太めくぎ ZN90(10本)
	HD-N15	20.16	18.24	15.68	太めくぎ ZN90(16本)
	HD-N20	22.68	20.52	17.64	太めくぎ ZN90(20本)
	HD-N25	29.48	26.68	22.93	太めくぎ ZN90(26本)

※ 表値は鋼板添え板による25%割増の値を示す。長期許容せん断耐力の値は表値の1/2とする。

※ べいまつ類：べいまつ・くろまつ・あかまつ・からまつ・つが

※ べいつが類：べいひ・べいつが・ひば・ひのき・もみす

※ すぎ類：とどまつ・えぞまつ・べにまつ・スプルス・すぎ・べいすぎ

※ ラグスクリューLS12は首下長11cm以上とし、柱寸法10.5cm角以上の部材に適用される。

※ 算出根拠は、日本建築学会発行の「木質構造設計基準・同解説」による。

- (4) アンカーボルト 下記●印で選択したアンカーボルトを適用する

アンカーボルト	M12	L = ○ 400 ○ 450 ○ 500	
	M16	L = ○ 600 ○ 700 ○ 800 ○ 900 ○ 1000	

注：この図面は、一例を示したものであり、各現場の状況に合わせ変更して使用すること。

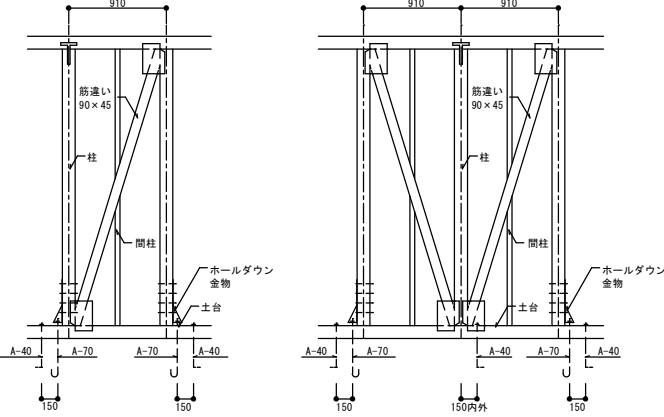
3. 各部構造の施工上の留意点

1 基礎と土台の緊結

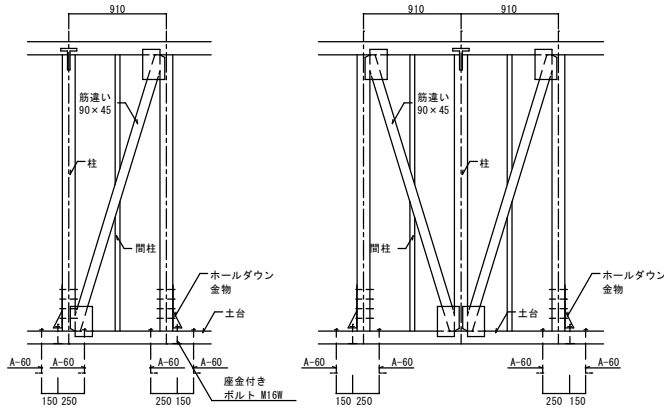
(1) アンカーボルトの配置

(a) 筋違いを設けた耐力壁の部分は両端柱の外側下部に近い位置を原則とする

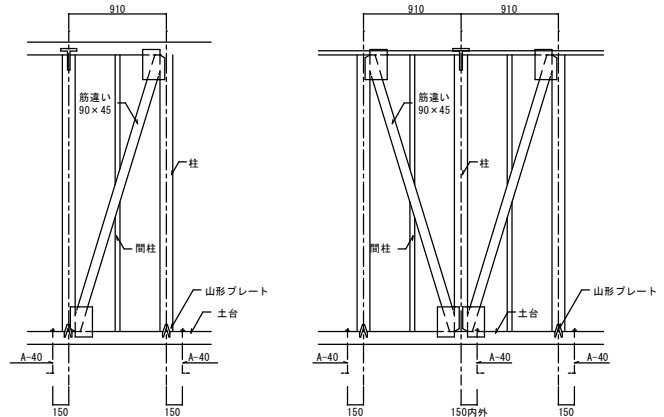
- ① ホールダウン金物をアンカーボルト (A-70) で緊結する場合



- ② ホールダウン金物を座金付きボルト (M16W) で土台と緊結する場合

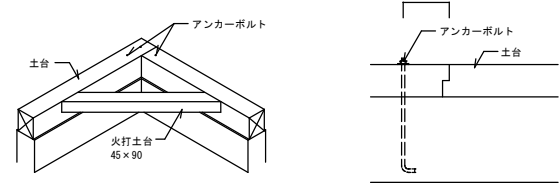


- ③ 山形プレートで土台と緊結する場合、または金物の無い場合



(b) 構造用合板を張った耐力壁の場合は(c)に準ずる

(c) 隅各部、土台継手及び土台仕口箇所等の端部

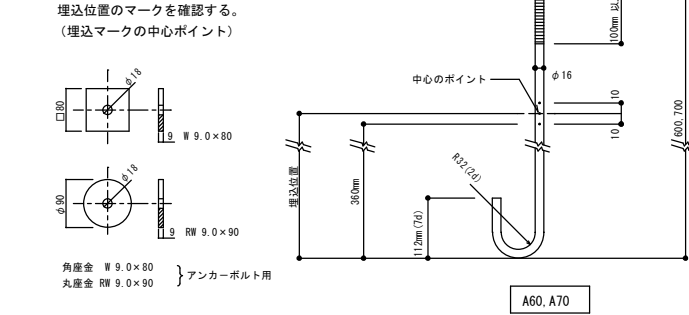


(d) 上記(a)、(b)及び(c)以外の部分においては間隔2m以内になるような位置とする

(2) アンカーボルトの施工

- (a) アンカーボルトの芯出しは、型板を用いて基準壁に正確に合わせる。
- (b) アンカーボルトのコンクリート基礎への埋め込み長さはA-60、A-70については360mm以上、A-40については250mm以上とする。
- なお、アンカーボルトの先端は土台の上端よりナットの外にねじが3山以上出るように固定する。
- (c) アンカーボルトは、所定の位置に垂直に敷設されるよう位置出し材を布基礎型特材に釘打ちし、アンカーボルトを固定してからコンクリートを打設すること。
- (d) アンカーボルトは、衝撃などにより曲がりが生じないよう、慎重に取り扱う。
- また、ねじ部分には、損傷・錆の発生・汚れ等を防止するために布、ビニールテープなどを巻いて養生を行う。

(3) アンカーボルトの定着のチェック方法

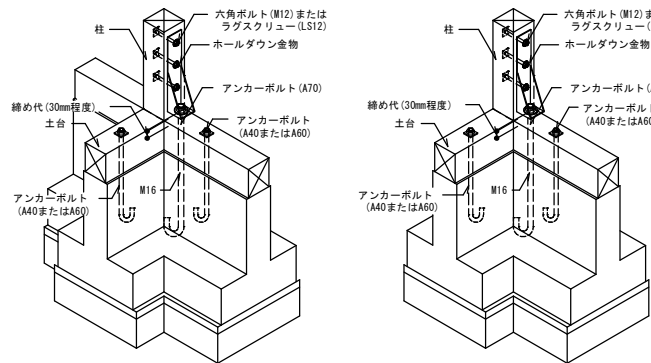


2 柱と基礎（土台）との緊結

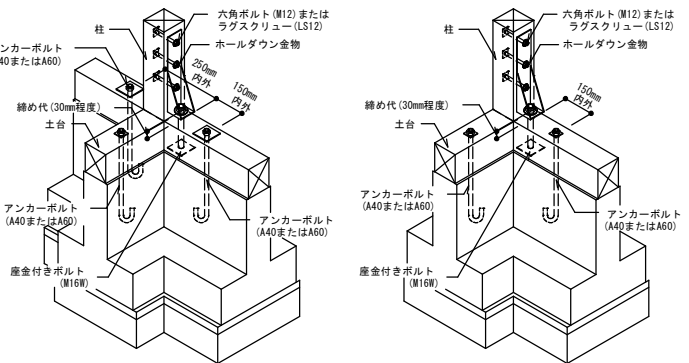
(a) 柱は、構造計算による引抜き応力に耐えられるように接合金物（ホールダウン金物）により基礎または土台と緊結する。ホールダウン金物は、柱の下部に締め代を30mm程度とり六角ボルト (M12)、ラグスクリュー (LS12) または太めくぎ (ZN90) にて柱に固定する。

(b) 緊結方法は次による

- ① ホールダウン用アンカーボルトを用いて直接基礎に緊結する場合

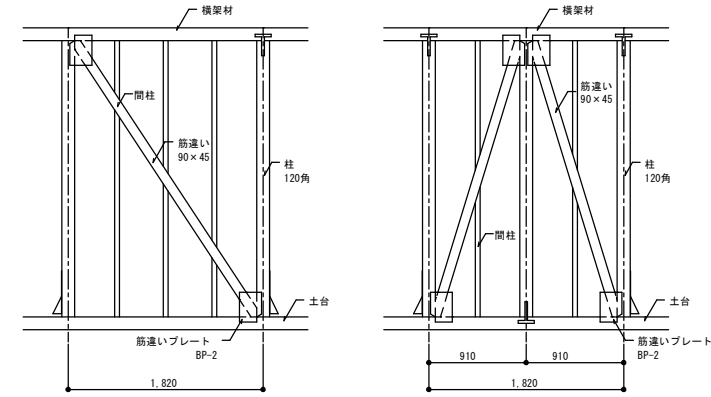


- ② 座金付きボルト (M16W) を用いて土台と柱を緊結する場合



3 筋違いの仕口

筋違いの仕口は筋違いプレート (BP、BP-2) によって緊結する



4 通し柱

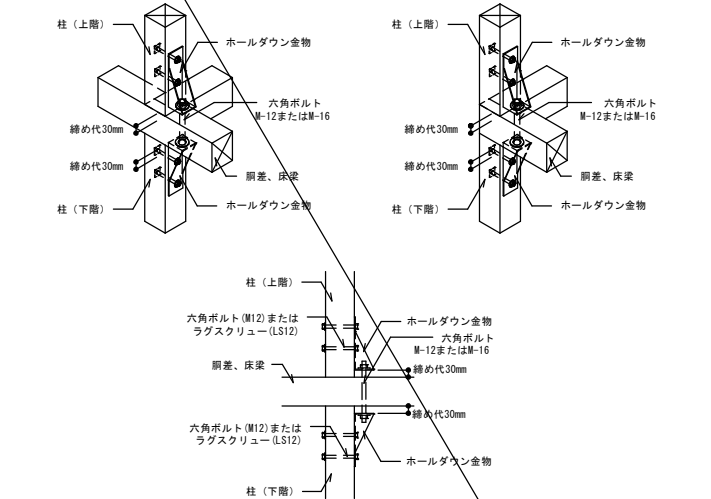
(a) 通し柱は、次のいずれかによる

- ① 1階から3階に達する通し柱とする。
- ② 1階から2階までの通し柱と、2階から3階までの通し柱を組み合わせて使用する場合、当該通し柱と管柱とは接合金物で緊結する。

(b) 通し柱に代わる管柱の補強

外周部の主要な隅柱及び構造計算による引抜き応力が大きい2階の柱は、1階の管柱と接合金物（ホールダウン金物）で緊結する。ホールダウン金物の取付けは、次による。

- ① 上階の柱及び下階の柱にホールダウン金物を用い、柱の下部及び上部に締め代を取り六角ボルト (M12)、ラグスクリュー (LS12) 等で各々取付ける。
- ② ホールダウン金物は相互に六角ボルト (M12またはM16) を用い緊結する。



(c) 上記 (b) 以外の構造計算による引抜き応力が小さい2階柱の接合金物は、短ざく金物 (S)、ひら金物 (SM-40) 等のZマーク表示品、または、これらと同等以上のものとする。

耐力壁線の交点が不一致の場合は、その際の水平力伝達に有効な横架材を耐力壁線上に設ける。
ただし、1メートル（約半間）を限度とする。

(1) 水平構面の剛性が十分期待できる床の施工（剛な床組）

- ① 種類：サイズ3×6版以上、厚さ12mm以上の構造用合板を用いる。
- ② 張り方：構造用合板の長手方向を根太と直交させ、かつ千鳥張りとする。
構造用合板の継手は、根太上で突き付け継ぎとし、継目下に受材（45mm×45mm程度）を設ける。
- ③ 釘打ち：構造用合板の四周边は釘（N50）を150mm以下で根太または床梁や胴差、受材等に平打ちする。
- ④ 床根太の寸法は45mm×105mmを標準とし、根太間隔は、455mm以下とする。
ただし、断面寸法105mm×105mm以上の甲乙梁を1,820mm内外（1間）の間隔に梁間・桁行き方向に配置する。
- ⑤ 床梁、胴差の仕口補強
柱と床梁・胴差、床梁と胴差の仕口は、金物、ボルトにより十分緊結補強する。

(a) 根太と床梁、胴差の先端高さが同じ場合の施工方法

根太は床梁、胴差に大入れ落とし込みとし、釘（N75、2本）で斜め打ちとするか、または、根太受け金物を用いて床梁、胴差に留め付ける。
この場合、構造用合板を床梁、胴差に釘で直張りする。
ただし、隅角部では柱があるため構造用合板のコーナーを欠いて釘打ちする。
なお、この場合、火打梁は省略できる。

隅角部では柱があるため構造用合板のコーナーを欠いて釘打ちする。

大入れ落とし込み

根太受け金物

床梁、胴差に直交する根太は渡りあご掛けとし、釘（N75、2本）で斜め打ちとする。

また、床梁・胴差の際には際根太、または受材を添え付け床板構造用合板の四辺周りを固定する。

際根太は床梁・胴差へ釘打ち（N90）間隔303mmで平打ちする。

受材で固定する

際根太で固定する

釘のピッチ

(1) 釘打ち基準

構造用合板(厚さ7.5)

910
455 455

6mm以上

間柱

3,000以下

150 150 150 150

柱

N50 釘

土台

200

(a) 隅角部（屋外・室内側とも構造用合板 7.5mmの場合）
内部側の入隅に有効面材を貼るために、柱面に半柱を釘N75 #300で取付ける。

(c) 柱の断面寸法が異なる場合の面材の納め方

① 柱を外面に合わせる。内壁側は受材で調整し、面材を張る。

② 柱を外面に合わせる。内壁側は柱の一部を欠き取り調整し、面材を張る。

③ 柱は芯合わせとし、外壁側、内壁側とも受材で調整し、面材を張る。

④ 柱は芯合わせとし、外壁側、内壁側とも柱の一部を欠き取り調整し、面材を張る。

(a) 隅角部

① ホールダウン金物の取り付け柱面と直交する柱面に有効面材を伸ばし、釘打ちする。
その上から半柱を釘N75 ③300で取付け、その半柱に他方向の面材を釘打ちする。

② ホールダウン金物の取り付け柱面と直交する柱面に有効面材を伸ばし、釘打ちする。
他方向の非有効面材は受材を設けて取付ける。

③ 面材の受材に半柱を釘N75 ③300で取付け、その半柱に有効面材を釘打ちする。
この場合、ホールダウン金物の取付けは、六角ボルトを使い、また、その長さに注意する。

有効面材

半柱

有効面材

有効面材

受材

非有効面材

有効面材

有効面材

半柱

有効面材

半柱を挟む場合、六角ボルトを用いる。
(長さに注意すること)

火打梁は耐力壁線に囲まれた隅角部に設ける。

(2) 小屋筋違い及び桁筋違い・振れ止め

小屋組の一体化を図るために、小屋束相互及び梁・桁にまたがり筋違い15mm×90mm以上を釘(N50、2本)で平打ちし固定する。

(3) 垂木

軒先部や、けらば・棟部の垂木は桁軒・母屋・棟木等の受材とひねり金物(ST)・折曲げ金物(SF)・くら金物(SS)等で緊結する。

(4) 棟木・母屋

棟木と第2母屋は、必要に応じて金物等で小屋束に接合する。

(5) 小屋束

小屋束下部と小屋梁あるいは妻梁・桁は、必要に応じて金物等で接合する。

耐震	部位	壁	分類	閉鎖型	有効期限	2026 年 3 月 31 日	評価番号	A-435
評価技術名称					連絡先			
部分開口 構造用合板補強工法					愛知建築地震災害軽減システム研究協議会			
真壁「上下あき」アルミ材下地					実験実施機関 :名古屋工業大学			
技術概要								
床、天井間のみをアルミアングルと構造用合板で補強する工法。								
技術の特徴							コスト	
・ 土壁・天井・床を解体することなく真壁や入隅に施工が可能							サンプル構面	18,002 円/kN
・ 真壁の仕上がりで補強が可能							設計見積り例	—
・ 壁体内に土壁や設備配管等が存在しても施工可能								
適用範囲					写真・図			
構法	木造在来軸組工法							
規模	3 階建て以下							
基礎、地盤	特になし							
適用部位	内外壁							
耐震性能								
評価仕様:アルミアングル下地 真壁仕様								
壁基準耐力		壁基準剛性						
4.16kN/m		584kN/rad/m						
A-111 からの低減係数 $\alpha = 0.8$ 壁基準耐力 $5.2 \times 0.8 = 4.16$								
設計方法								
① 柱接合部による低減 : 取付部分が健全であること								
② 劣化による低減 : 取付部分が健全であること								
施工者指定								
特になし								
主要構成部材の仕様								
構造用合板	真壁、厚 12mm、縦使い、各高さ 400mm 以上、タッピングビス $\phi 3 \times L30$ 、木ビス(コーススレッド) $\phi 3.8 \times L32$ 、セルフドリルネジ $\phi 4 \times L30$ のいずれか、@100mm 以下、川の字打ち、端あき 15mm 以上 20mm 以下							
アルミアングル	アルミ不等辺アングル 9×40 t=1.5 またはこれ以上のサイズのもの							
(縦)	JIS H4100 の A6063-T5 材(アルミ建築構造設計基準で AS110 材)またはこれと同等の強度を有するもの							
木ビス(コーススレッド)	$\phi 3.8 \times L32$ 、先孔 $\phi 3$ 、アングル角部を斜め打ち、@100mm 以下							
間柱	なし							
継手受材	なし							
上下受材	なし							
四方受材	なし							
下地材	なし							
かさ上げ材	なし							
アルミアングル納まり図								
木ビスはアルミアングル周辺の中央付近に打たず、なるべくコーナー付近に打つ								
概念図								

2024.3.

耐震	部位	壁	分類	閉鎖型	有効期限	2026 年 3 月 31 日	評価番号	A-233
評価技術名称					連絡先			
部分開口 構造用合板補強工法					愛知建築地震災害軽減システム研究協議会			
大壁「上下あき」裏桟なし					実験実施機関 :名古屋工業大学			
概要	技術概要							
	梁及び土台と面材を接合せず、床天井間のみを構造用合板で補強する工法。							
	技術の特徴						コスト	
	・ 天井・床を解体することなく補強が可能						サンプル構面	14,089 円/kN
要	・ 壁体内に土壁や設備配管等が存在しても施工可能						設計見積り例	—
	・ 一般流通品なので取り扱いが容易							
	適用範囲				写真・図			
	構法				木造在来軸組工法			
規模				3 階建て以下				
基礎、地盤				特になし				
適用部位				内外壁				
耐震性能								
評価仕様:大壁直貼仕様								
壁基準耐力				壁基準剛性				
3.64kN/m				511kN/rad/m				
A-111 からの低減係数 $\alpha = 0.7$								
壁基準耐力 $5.2 \times 0.7 = 3.64$								
設計方法								
① 柱接合部による低減 : 取付部分が健全であること								
② 劣化による低減 : 取付部分が健全であること								
施工者指定								
特になし								
主要構成部材の仕様								
仕 様	構造用合板	大壁、厚 12mm、縦使い、各高さ 400mm 以上						
		釘 N50、CN50、@100mm 以下、川の字打ち、端あき 15mm 以上 20mm 以下						
	間柱	なし						
	継手受材	なし						
	上下受材	なし						
	四方受材	なし						
	下地材	なし						
	アルミアングル	なし						
かさ上げ材	なし							
その他								

2024.3.

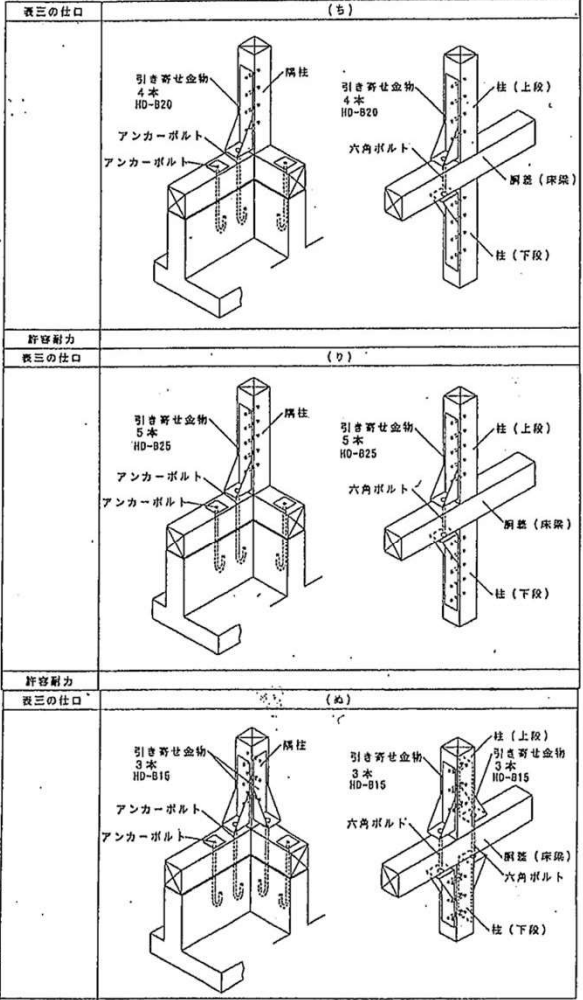
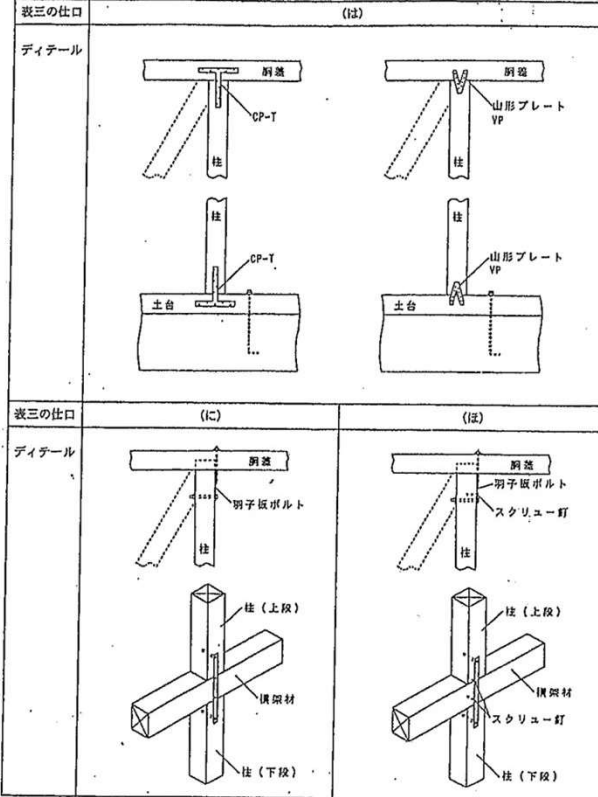
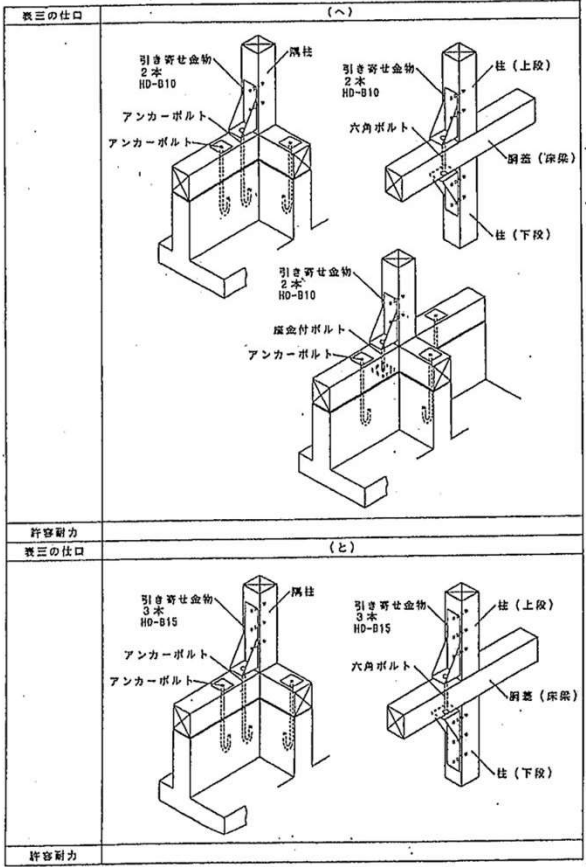
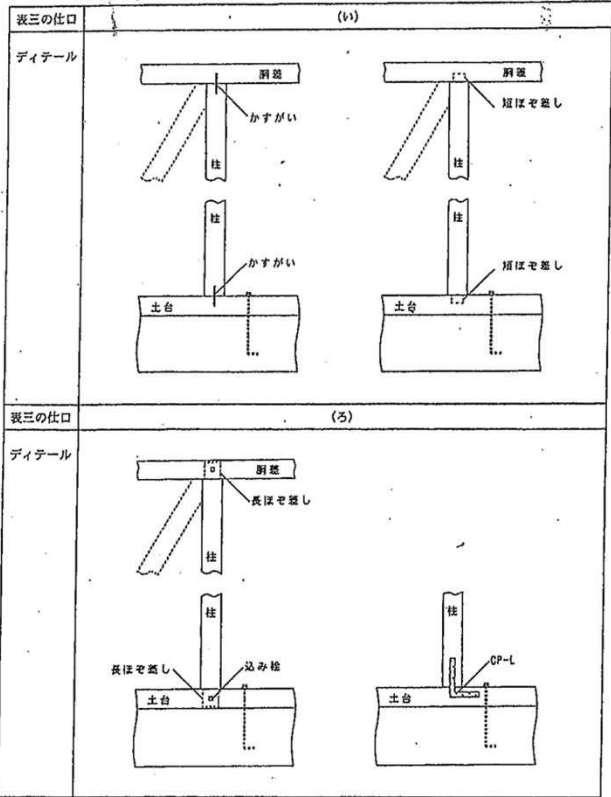


表 接合部の仕様 (告示表三に対応)

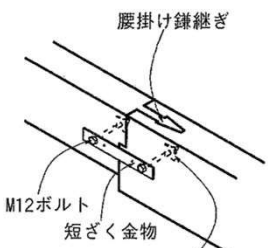
N の値	告示表三	必要耐力 (kN)	金物等 (これらと同等以上の接合方法を含む)
0.0 以下	(イ)	0.0	短ぼさ差し、かすがい打
0.65 以下	(ロ)	3.4	長ぼさ差し込み栓打、L 字形かど金物くぎ CN65×5 本
1.0 以下	(ハ)	5.1	T 字形かど金物くぎ CN65×5 本、山形プレート金物くぎ CN90×8 本
1.4 以下	(ニ)	7.5	羽子板ボルト φ12mm、短冊金物
1.6 以下	(ヘ)	8.5	羽子板ボルト φ12mm に長さ50mm 径4.5mm のスクリー釘
1.8 以下	(ホ)	10.0	10kN 用引き寄せ金物
2.8 以下	(ロ)	15.0	15kN 用引き寄せ金物
3.7 以下	(カ)	20.0	20kN 用引き寄せ金物
4.7 以下	(コ)	25.0	25kN 用引き寄せ金物
5.6 以下	(ケ)	30.0	15kN 用引き寄せ金物×2 枚
5.6 超	—	N×5.3	

表三

(イ)	短ぼさ差し、かすがい打ち又はこれらと同等以上の接合方法としたもの
(ロ)	長ぼさ差し込み栓打ち若しくは厚さ2.3ミリメートルのL 字型の鋼板添え板を、柱及び横架材に対してそれぞれ長さ6.5センチメートルの太め鉄丸くぎを5 本平打ちとしたもの又はこれらと同等以上の接合方法としたもの
(ハ)	厚さ2.3ミリメートルのT 字型の鋼板添え板を用い、柱及び横架材にそれぞれ長さ6.5センチメートルの太め鉄丸くぎを5 本平打ちとしたもの若しくは厚さ2.3ミリメートルのV 字型の鋼板添え板を用い、柱及び横架材にそれぞれ長さ9 センチメートルの太め鉄丸くぎを4 本平打ちとしたもの又はこれらと同等以上の接合方法としたもの
(ニ)	厚さ3.2ミリメートルの鋼板添え板に径12ミリメートルのボルトを溶接した金物を用い、柱に対して径12ミリメートルのボルト締め、横架材に対して厚さ4.5ミリメートル、40ミリメートル角の角座金を介してナット締めをしたもの若しくは厚さ3.2ミリメートルの鋼板添え板を用い、上下階の連続する柱に対してそれぞれ径12ミリメートルのボルト締めとしたもの又はこれらと同等以上の接合方法としたもの
(ヘ)	厚さ3.2ミリメートルの鋼板添え板に径12ミリメートルのボルトを溶接した金物を用い、柱に対して径12ミリメートルのボルト締め及び長さ50ミリメートル、径4.5ミリメートルのスクリー釘打ち、横架材に対して厚さ4.5ミリメートル、40ミリメートル角の角座金を介してナット締めしたもの又は厚さ3.2ミリメートルの鋼板添え板を用い、上下階の連続する柱に対してそれぞれ径12ミリメートルのボルト締め及び長さ50ミリメートル、径4.5ミリメートルのスクリー釘打ちとしたもの又はこれらと同等以上の接合方法としたもの
(ホ)	厚さ3.2ミリメートルの鋼板添え板を用い、柱に対して径12ミリメートルのボルト2 本、横架材、布基礎若しくは上下階の連続する柱に対して当該鋼板添え板に止め付けた径16ミリメートルのボルトを介して緊結したもの又はこれと同等以上の接合方法としたもの
(ロ)	厚さ3.2ミリメートルの鋼板添え板を用い、柱に対して径12ミリメートルのボルト3 本、横架材 (土台を除く。)、布基礎若しくは上下階の連続する柱に対して当該鋼板添え板に止め付けた径16ミリメートルのボルトを介して緊結したもの又はこれと同等以上の接合方法としたもの
(カ)	厚さ3.2ミリメートルの鋼板添え板を用い、柱に対して径12ミリメートルのボルト4 本、横架材 (土台を除く。)、布基礎若しくは上下階の連続する柱に対して当該鋼板添え板に止め付けた径16ミリメートルのボルトを介して緊結したもの又はこれと同等以上の接合方法としたもの
(コ)	厚さ3.2ミリメートルの鋼板添え板を用い、柱に対して径12ミリメートルのボルト5 本、横架材 (土台を除く。)、布基礎若しくは上下階の連続する柱に対して当該鋼板添え板に止め付けた径16ミリメートルのボルトを介して緊結したもの又はこれと同等以上の接合方法としたもの
(ケ)	(ロ)に掲げる仕口を2 組用いたもの

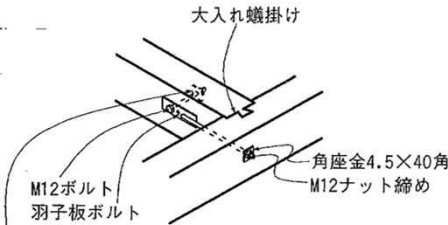
表 2.4.8.1 横架材接合部の短期許容引張耐力

横架材接合部の仕様			短期許容引張耐力 T_a [kN]
継手	(1)	腰掛け蟻（鎌）継ぎ+厚さ 3.2mm の短ざく金物で双方の横架材に対してそれぞれ径 12mm のボルト締めしたもの。又は、これと同等の接合方法としたもの。	10.1
	(2)	腰掛け蟻（鎌）継ぎ+厚さ 3.2mm の短ざく金物 2 枚を用いて双方の横架材に対してそれぞれ径 12mm のボルト締めしたもの。又は、これと同等の接合方法としたもの。	15.9
仕口	(3)	大入れ蟻掛け+厚さ 3.2mm の鋼板に径 12mm のボルトを溶接した金物（羽子板ボルト）を用いて、一方の部材に対して径 12mm のボルト締め、他方の部材に対して厚さ 4.5mm、40mm 角の座金を介してナット締めしたもの。又は、これと同等の接合方法としたもの。	10.1
	(4)	大入れ蟻掛け+厚さ 3.2mm の鋼板に径 12mm のボルトを溶接した金物（羽子板ボルト）2 個を用いて、一方の部材に対して径 12mm のボルト締め、他方の部材に対して 2 個の金物それぞれについて厚さ 4.5mm、40mm 角の座金を介してナット締めしたもの。又は、これと同等の接合方法としたもの。	15.9
	(5)	横架材端部を通し柱に大入れほぞ差し、又は、傾ぎ大入れとし、引張力は羽子板ボルト又は短ざく金物、又は、かね折り金物（厚さ 3.2mm の鋼板を L 字型に折り曲げて出隅部の通し柱に取り付く直交方向の横架材端部どうしを径 12mm のボルト締め）を用いて径 12mm のボルト締めとしたもの。	7.5
	(6)	横架材端部を通し柱に大入れほぞ差し、又は、傾ぎ大入れとし、引張力は羽子板ボルト又は短ざく金物を用いて径 12mm のボルト締めに加えて長さ 50mm 径 4.5mm スクリュー釘 1 本をそれぞれの横架材に打ち込んだもの。	8.5

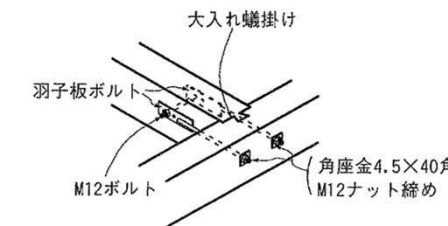


- ①裏側を角座金4.5×40角を介してナット締め： $T_a=10.1\text{kN}$
②裏側にも短ざく金物でつないで2面せん断ボルト接合とした場合： $T_a=15.9\text{kN}$

図 2.4.8.1 腰掛け鎌継ぎ+短ざく金物

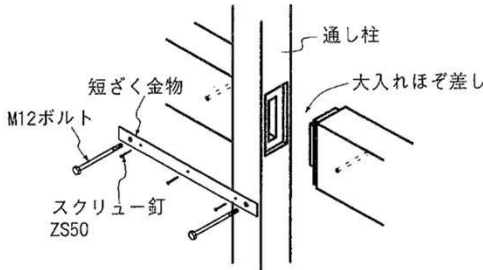


- ③裏側を角座金4.5×40角を介してナット締め： $T_a=10.1\text{kN}$



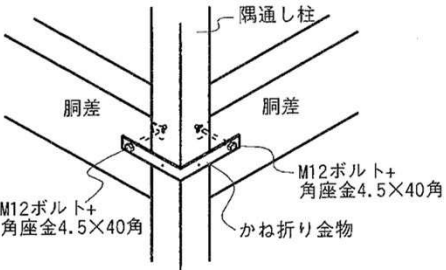
- ④羽子板ボルト 2 個で 2 面せん断ボルト接合： $T_a=15.9\text{kN}$

図 2.4.8.2 大入れ蟻掛け+羽子板ボルト



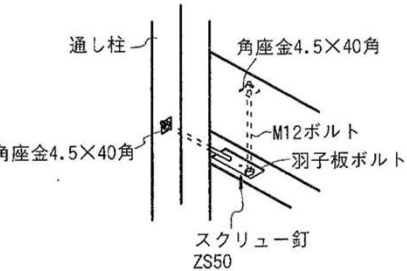
- ⑤横架材どうしを短ざく金物でつなぎ、双方にM12ボルト締め： $T_a=7.5\text{kN}$
⑥上記に加えて、双方の横架材にスクリュー釘ZS50打ち： $T_a=8.5\text{kN}$

図 2.4.8.3 通し柱をはさんで同一方向の横架材端部の接合方法



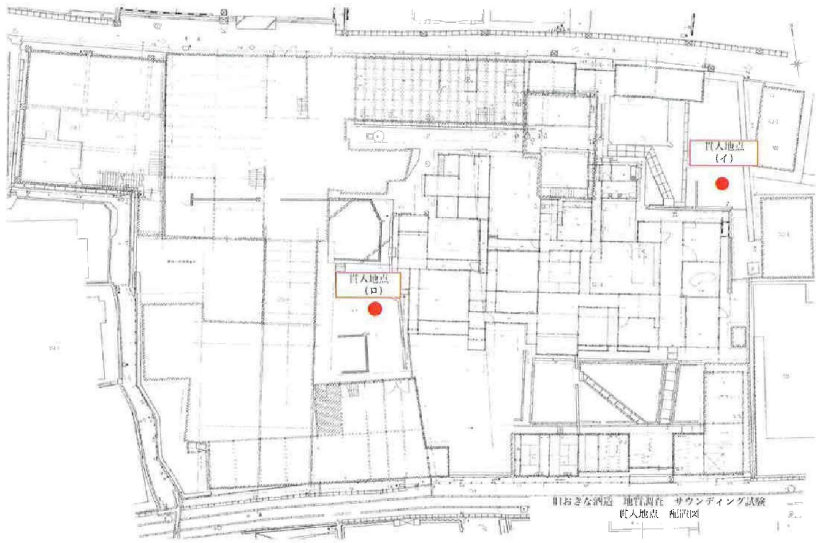
- ⑤偶通し柱をはさんで直交する胴差どうしをかね折り金物でつなぎ、双方の胴差にM12ボルト締め： $T_a=7.5\text{kN}$
(通し柱に打つスクリュー釘ZS50は加算できない)

図 2.4.8.4 通し柱をはさんで直交する横架材端部の接合方法



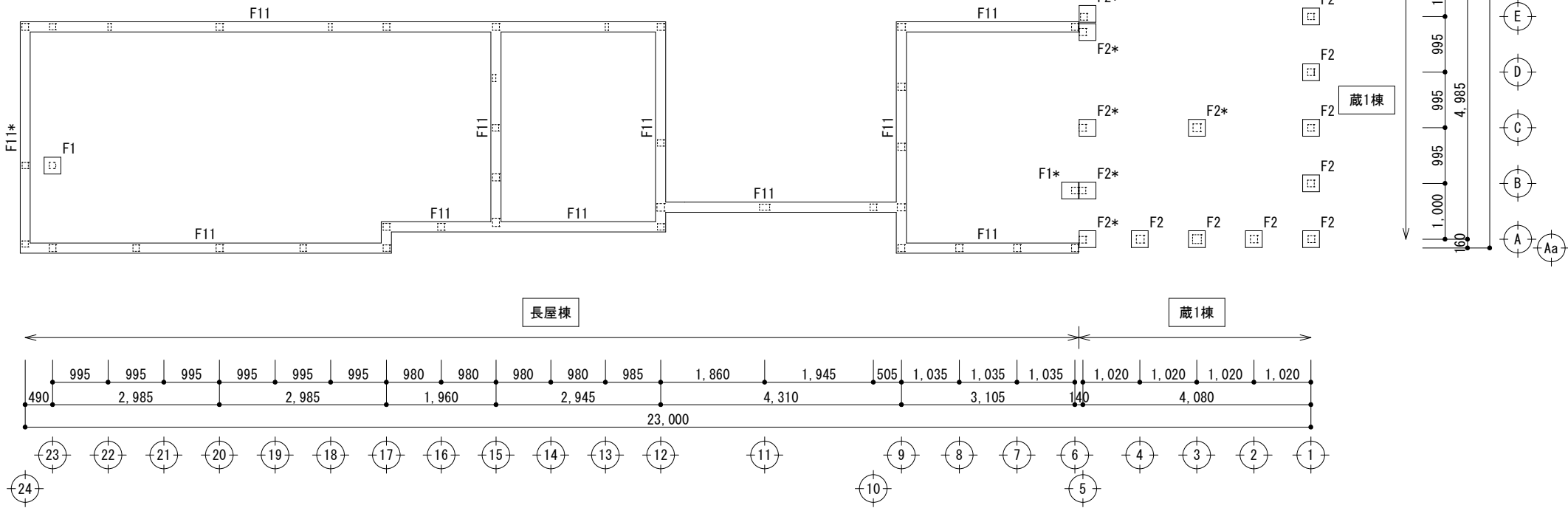
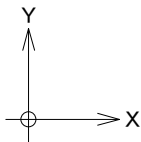
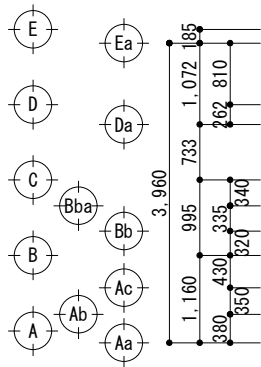
- ⑤横架材の下端に羽子板ボルトをM12締めとし、通し柱に羽子板ボルトの一端を貫通して角座金4.5×40角を介してM12ナット締め： $T_a=7.5\text{kN}$
⑥上記に加えて、羽子板から横架材にスクリュー釘ZS50を1本打ち： $T_a=8.5\text{kN}$

図 2.4.8.5 通し柱と横架材を羽子板ボルトどめする横架材端部の接合方法



スウェーデン式サウンディング試験														
調査名 旧おきな酒造 地質調査							測点番号 イ							
調査地点 大阪府羽曳野市経里3丁目6番5号							年月日 平成31年 2月 6日							
標 高 KBM10 +0.020 m			最終貫入深さ		1.13 m		試験者 風間 宏司							
水 位 不明		天 候 雨			試験方法 機械									
換算式 $q_a = 30 + 0.6N_{sw}$, $q_a' = 30 + 0.6N_{sw}$ (回転時), $q_a' = 30W_{sw} / 1.0$ (自沈時) $N = 3W_{sw} + 0.05N_{sw}$ (粘性土), $N = 2W_{sw} + 0.067N_{sw}$ (砂質土)														
荷重 W_{sw}	半回 転数	貫入 深さ D m	貫入 量 L cm	1m当り 半回転 数 N_{sw}	記事		推定 柱状図	荷重 W_{sw} kN 250 500 750 kgf		貫入量1m当り 半回転数 N_{sw}		換算 N 値	換算 q_a'	
					音・感触	貫入状況		25 50 75	50 100 200	t/m ²	kN/m ²			
100	1,000	0.0	0.25	25	0	無回転						2.0	3.0	30.0
100	1,000	39.0	0.50	25	156	ジャリジャリ						12.5	12.1	123.6
100	1,000	192.0	0.75	25	768	打撃						53.5	49.1	499.8
100	1,000	118.0	1.00	25	474	#						33.6	31.0	313.2
100	1,000	224.0	1.13	13	1723	打撃・空転						117.4	109.4	1063.9
凡例														

スウェーデン式サウンディング試験																	
調査名		旧おきな酒造 地質調査						測点番号		ロ							
調査地点		大阪府羽曳野市軽里3丁目6番5号						年月日		平成31年 2月 6日							
標高		KBM13	0.020 m		最終貫入深さ		1.57 m		試験者		風間 宏司						
水位		不明		天候		雨		試験方法		機械							
換算式		qa = 30 + 0.6Nsw, qa' = 30 + 0.6Nsw (回転時), qa' = 30Wsw / 1.0 (自沈時) N = 3Wsw + 0.05Nsw(粘性土), N = 2Wsw + 0.067Nsw(砂質土)															
荷重 Wsw		半回 転数	貫入 深さ D m	貫入 量 L cm	1m当り 半回転 数 Nsw	記事		推定 柱状図	荷重 Wsw kN 250 500 750		貫入量1m当り 半回転数 Nsw		換算 N値	換算 qa'			
kgf	kN	N/m	m	cm	N/sw	音・感触	貫入状況		25	50	75	50	100	200	Nφ	t/m ²	kN/m ²
0	0.000	0.0	0.25	25	0		無回転										
50	0.500	0.0	0.50	25	0		無回転								1.0	1.5	15.0
100	1.000	8.0	0.75	25	32										4.1	1.9	49.2
100	1.000	10.0	1.00	25	160				基礎底	GL-0.30m					12.7	12.5	125.0
100	1.000	36.0	1.25	25	144										11.6	11.6	116.4
100	1.000	206.0	1.50	25	824		打撃							37.2	32.4	324.4	
100	1.000	131.0	1.57	7	1871		#							127.4	115.3	1152.9	
凡例																	
粘性土		砂質土		礫質土		シルト											



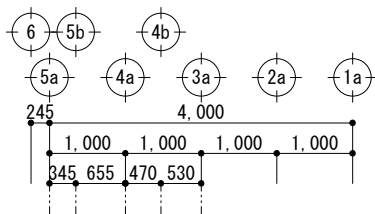
■ 基礎伏図 1/100

特記なき限り下記による

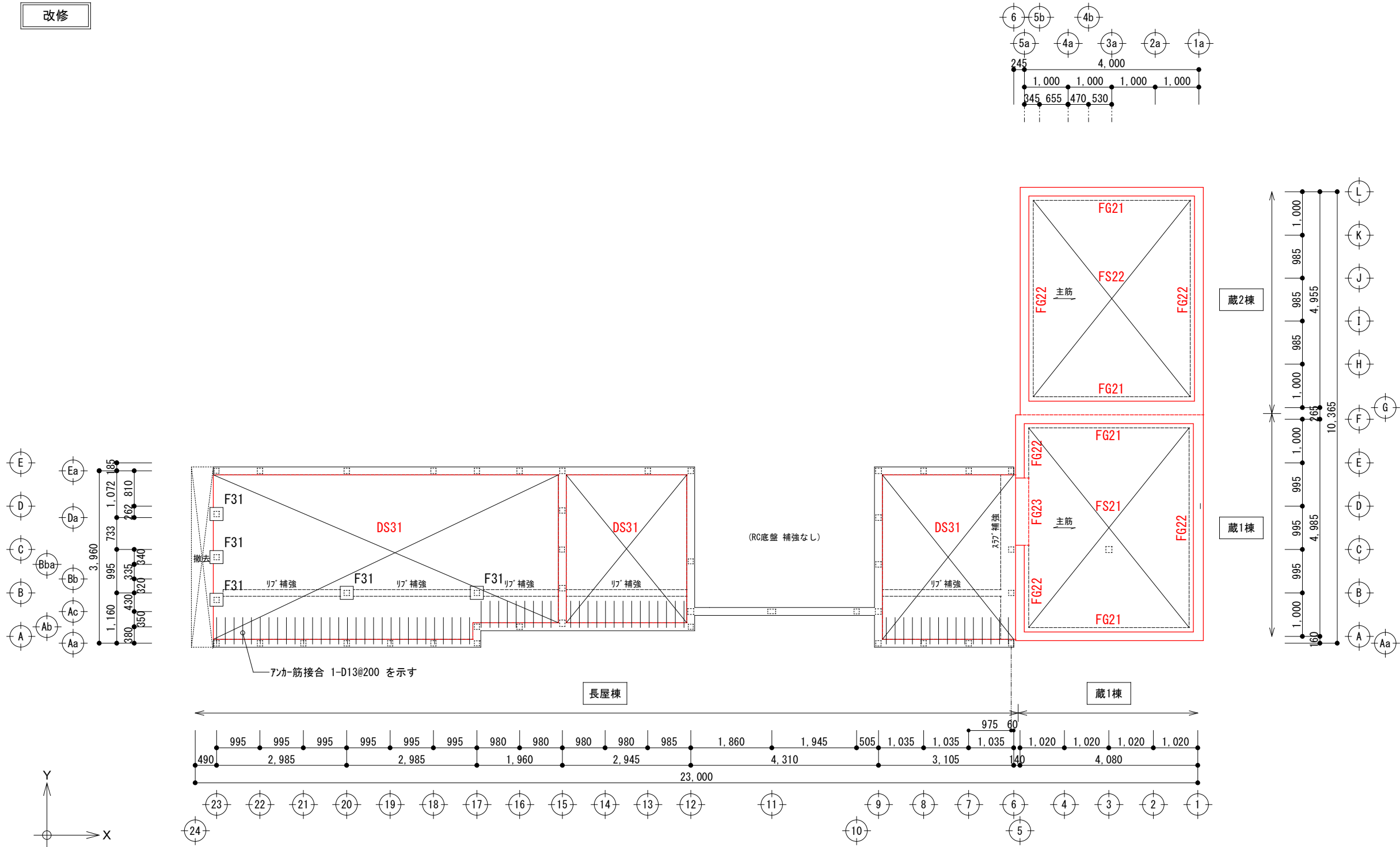
- F1 : 玉石 450φ H=230
- F2 : 玉石 450φ H=230
- F11 : 地覆石 B=180 H=100

○ *印は推定した符号を示す

※受領資料および現地調査を基に作成



	Project	羽曳野市旧浅野家住宅	Date	2024. 06.	Architect	Scale	Sheet No.	Title
			Drawing			1/100		



■ 基礎伏図 1/100

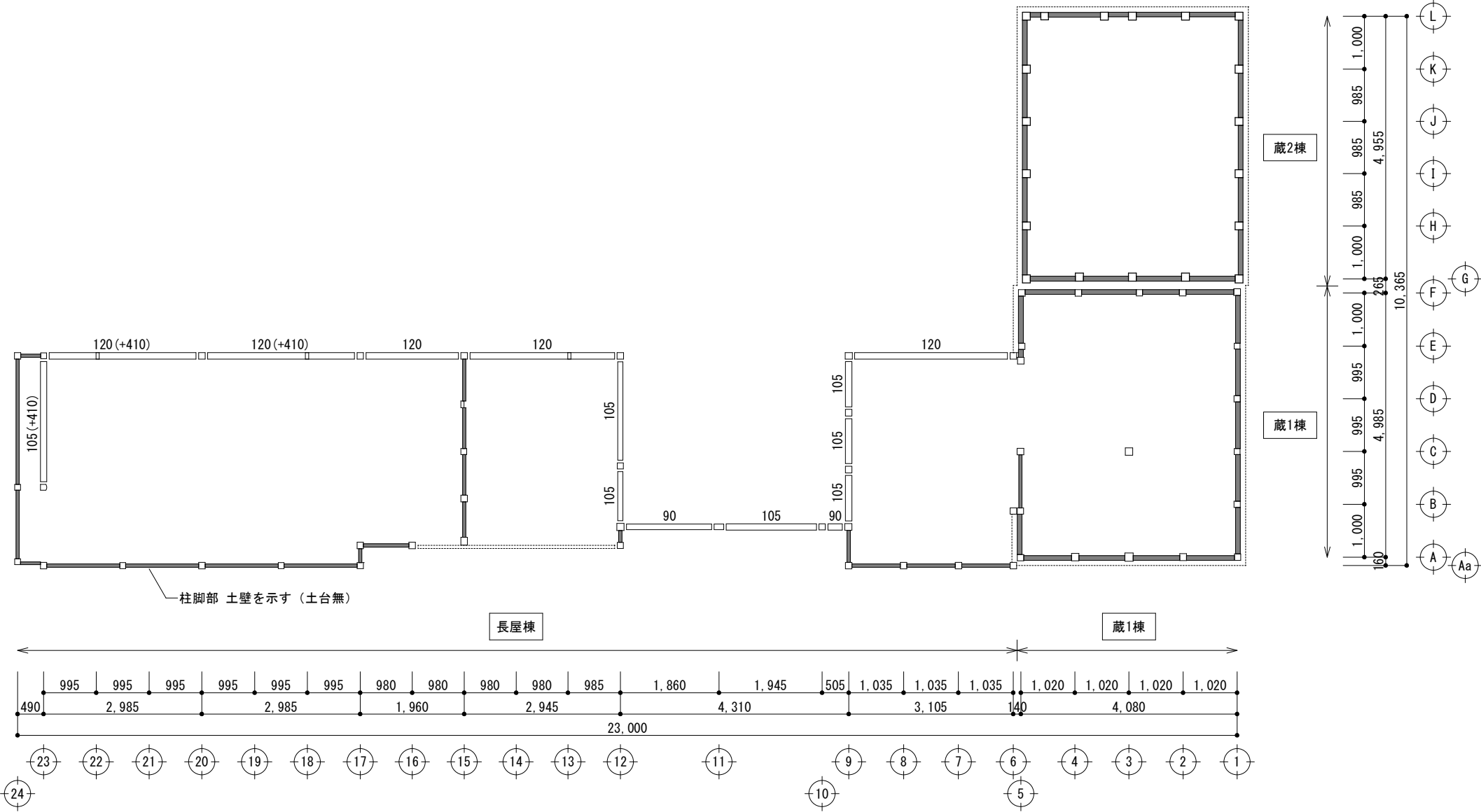
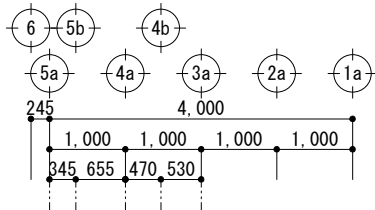
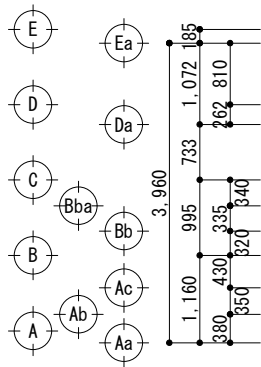
- 特記なき限り下記による
- | | |
|--|--|
| ＜長屋棟＞ RC底盤 土台、柱脚 緊結 | ＜長屋棟＞ RC基礎 新設 |
| ○ DS31 : RC底盤 補強 (t=150)
コン天端 GL+50 | ○ FG21 : RC基礎梁 新設 (BxD=200×600) ○ □ 柱類を示す |
| ○ F31 : 既設玉石 転用 (450φ H=230) | FG22 FG天端 GL+300 |
| ○ スラブ 補強 : RC底盤の補強 (BxD=300×300) | ○ FG23 : RC基礎梁 新設 (BxD=300~200×300) ○ コンクリート天端は、意匠図を確認のこと |
| ○ リブ 補強 : RC底盤の補強 (BxD=150×300) | FG天端 GL±0 |
| | ○ FS21 : RC基礎スラブ 新設 (t=200) |
| | FS22 スラブ天端 GL±0 |
| ○ 道路側 Aa, Ab 通り 地覆石は、RC底盤に
1-D13@200 アンカー筋接合とする | ○ 基礎底 GL-300 |

＜共通事項＞
※劣化している部位は、補修、補強、または交換のこと

構造：一級建築士 第344060号 構造設計一級建築士 第9920号 石倉 和浩

Project	羽曳野市旧浅野家住宅	Date	2024. 06.	Architect	Scale	Sheet No.	Title
		Drawing			1/100	S-10	

長屋門・蔵
[改修] 基礎伏図



柱脚、土台伏図 1/100

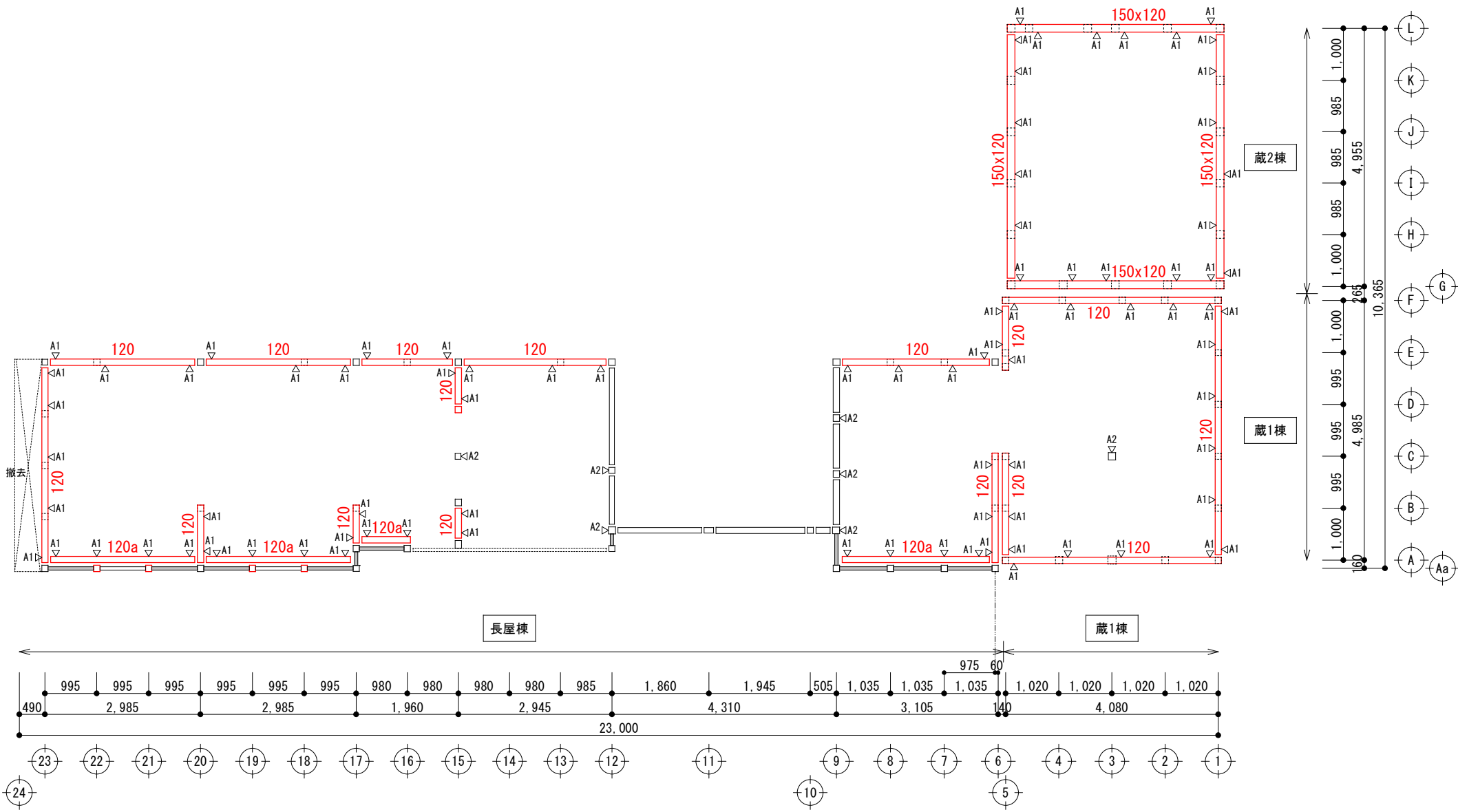
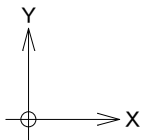
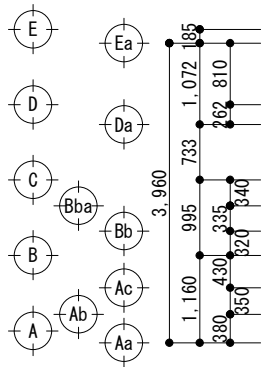
特記なき限り下記による

- 土台を示し、梁幅 120 とする
- 土壁を示す
- 管柱を示す
- () 内数値は GLからの梁天端を示す

○ *印は推定した符号を示す

※受領資料および現地調査を基に作成

	Project	羽曳野市旧浅野家住宅	Date	2024. 06.	Architect	Scale	Sheet No.	Title
			Drawing			1/100		



■ 土台、アンカーボルト伏図 1/100

特記なき限り下記による

- 土台 補強 (無等級材 ヒノキ同等品)
梁幅 120、各数値は 梁せい を示す
- 120 : 土台 新設 (BxD=120×120)
- 120a : 添え土台 (BxD=120×120)
- 150x120 : 土台 新設 (BxD=150×120)

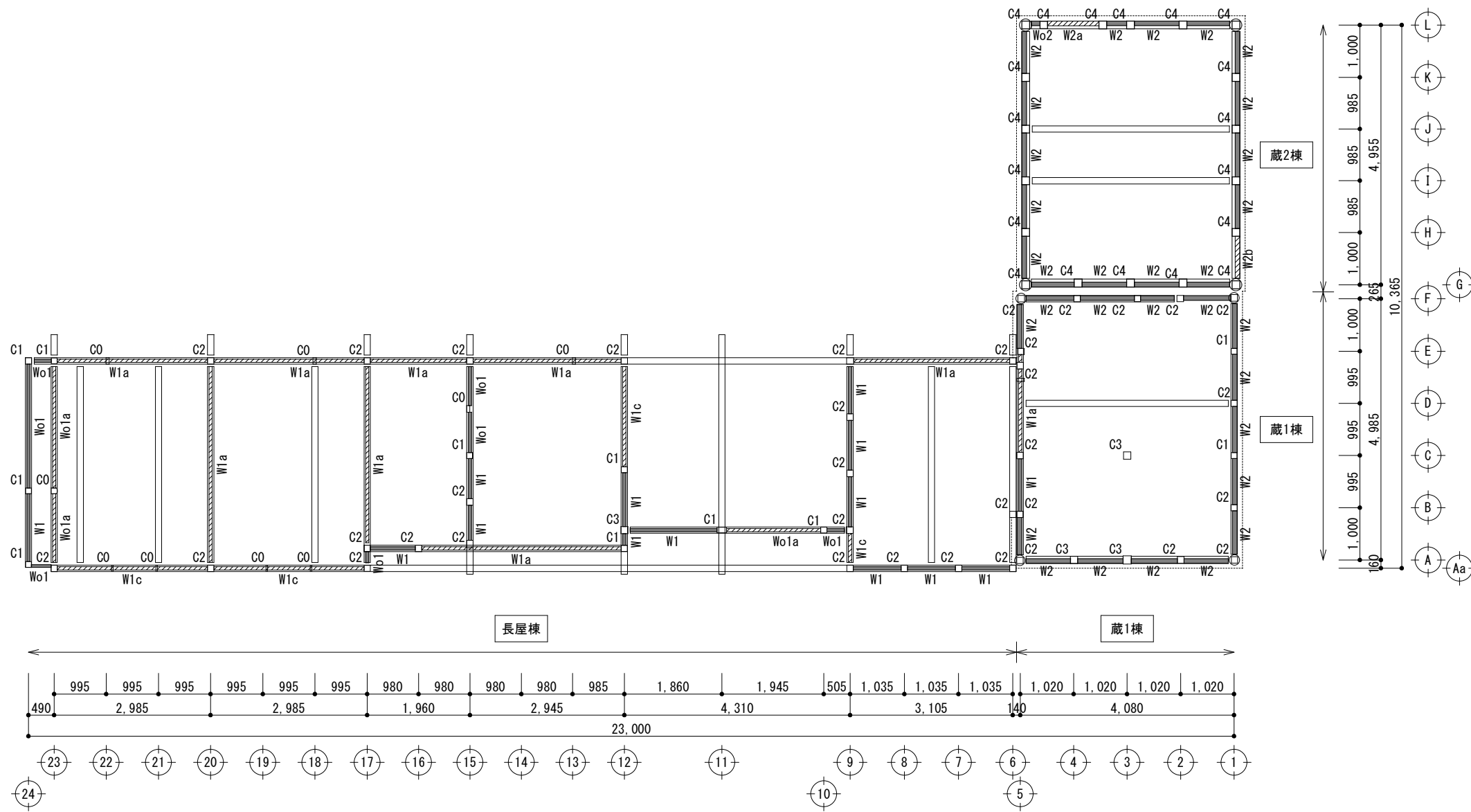
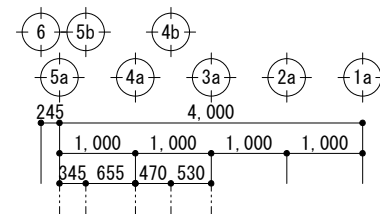
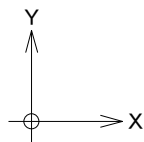
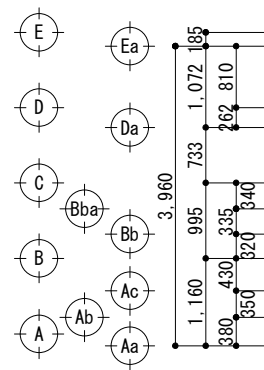
<A. BLT概要> A. BLT間隔は @3000mm以内、埋設位置は柱芯から200mm以内とする

符号	アンカーボルト	定着長	柱脚金物	備考
△ A1	M12	250mm	い〜へ	
△ A2	M12	250mm	い〜へ	柱脚 鈎緊結型

<土台座金概要> 柱脚金物は耐力壁配置図による

柱脚金物	角座金仕様	備考
い〜は	W4.5×40	6kN以下
に〜へ	W6.0×54	11kN以下

構造：一級建築士 第344060号 構造設計一級建築士 第9920号 石倉 和浩



■ 1階 柱、耐力壁伏図 1/100

- 特記なき限り下記による

-  土壁を示す
-  垂壁、腰壁を示す
-  柱類（スギ 無等級材）を示す
-  通柱を示す
-  梁類を示し、梁伏図による

- *印は推定した符号を示す
※受領資料および現地調査を基に作成

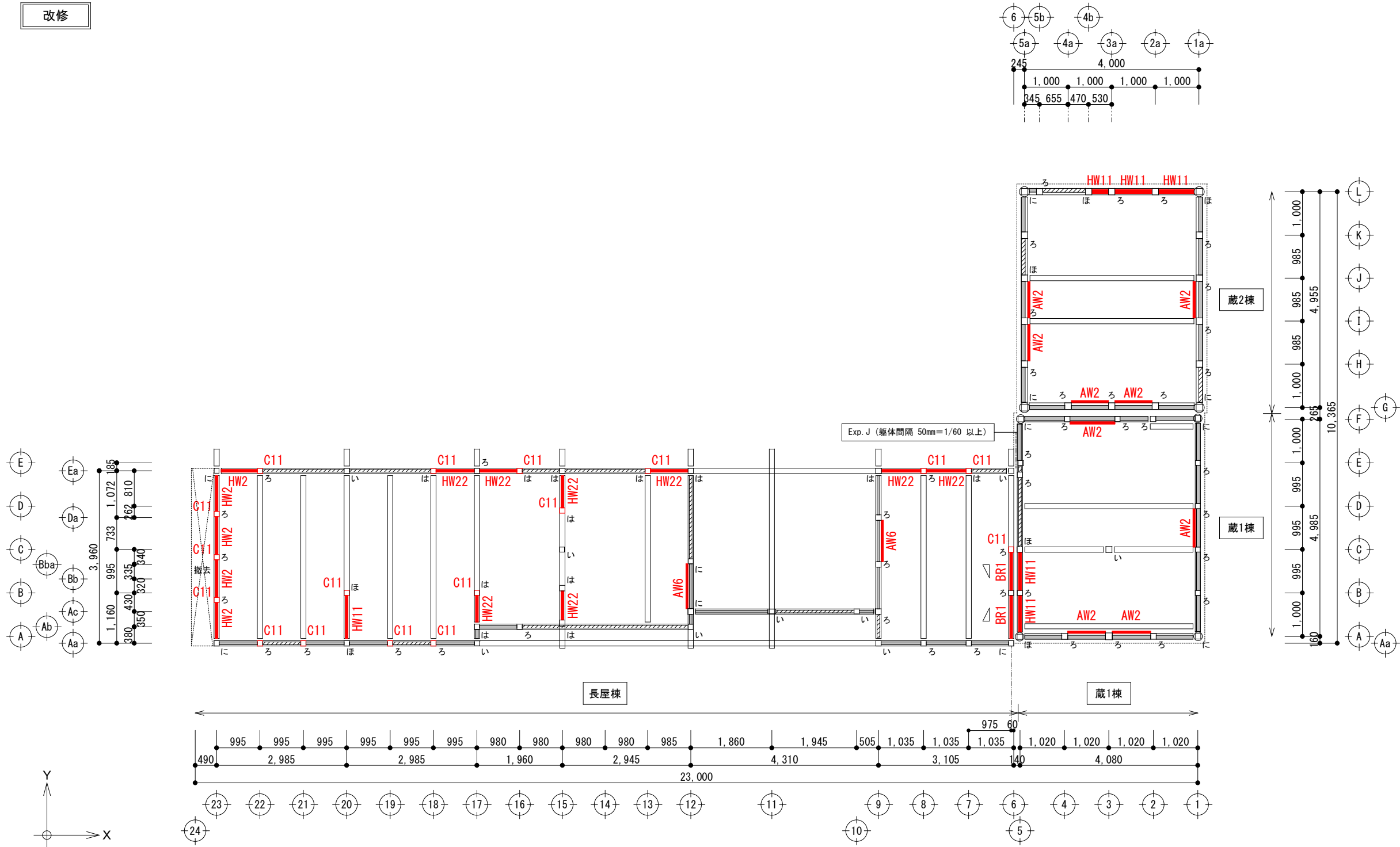
- 壁符号は 下記とする

- W1 : 土壁 壁厚 70mm
- W1a : 土壁 壁厚 70mm (垂壁)
- W1b : 土壁 壁厚 70mm (腰壁)
- W1c : 土壁 壁厚 70mm (垂壁、腰壁)
- W2 : 土壁 壁厚 90mm
- W2a : 土壁 壁厚 90mm (垂壁)
- W2b : 土壁 壁厚 90mm (腰壁)
- W2c : 土壁 壁厚 90mm (垂壁、腰壁)
- Wo** : 非耐力壁扱い ※剛性考慮、耐力無視

- 柱符号は 下記とする

- C1 : 柱 105mm 角
- C2 : 柱 120mm 角
- C3 : 柱 135mm 角
- C4 : 柱 150mm 角
- C0 : 柱 105mm 未滿 (間柱、窓枠)

構造：一級建築士 第344060号 構造設計一級建築士 第9920号 石倉 和浩



■ 1階 柱、耐力壁伏図 1/100

特記なき限り下記による

補強壁は 下記とする

- 既設壁 を示す
- 補強壁 を示す
- 垂壁、腰壁 を示す

- **HW1** : 構造用合板〈真壁 受材仕様〉t=12 (片面)
- **HW11** : 構造用合板〈真壁 受材仕様〉t=12 (両面)
- **HW2** : 荒壁パネル〈受材仕様〉t=26 (片面)
- **HW22** : 荒壁パネル〈受材仕様〉t=26 (両面)

- **AW1, AW2** : 構造用合板〈A工法 真壁〉t=12
アルミ縦 上下あき半間型
- **AW6** : 構造用合板〈A工法 大壁〉t=12
裏棧なし 上下あき半間型

補強柱は 下記とする

- 柱 補強 (無等級材 スギ以上)
- **C10** : 柱 新設 (BxD=105×105)
- **C11** : 柱 新設 (BxD=120×120)

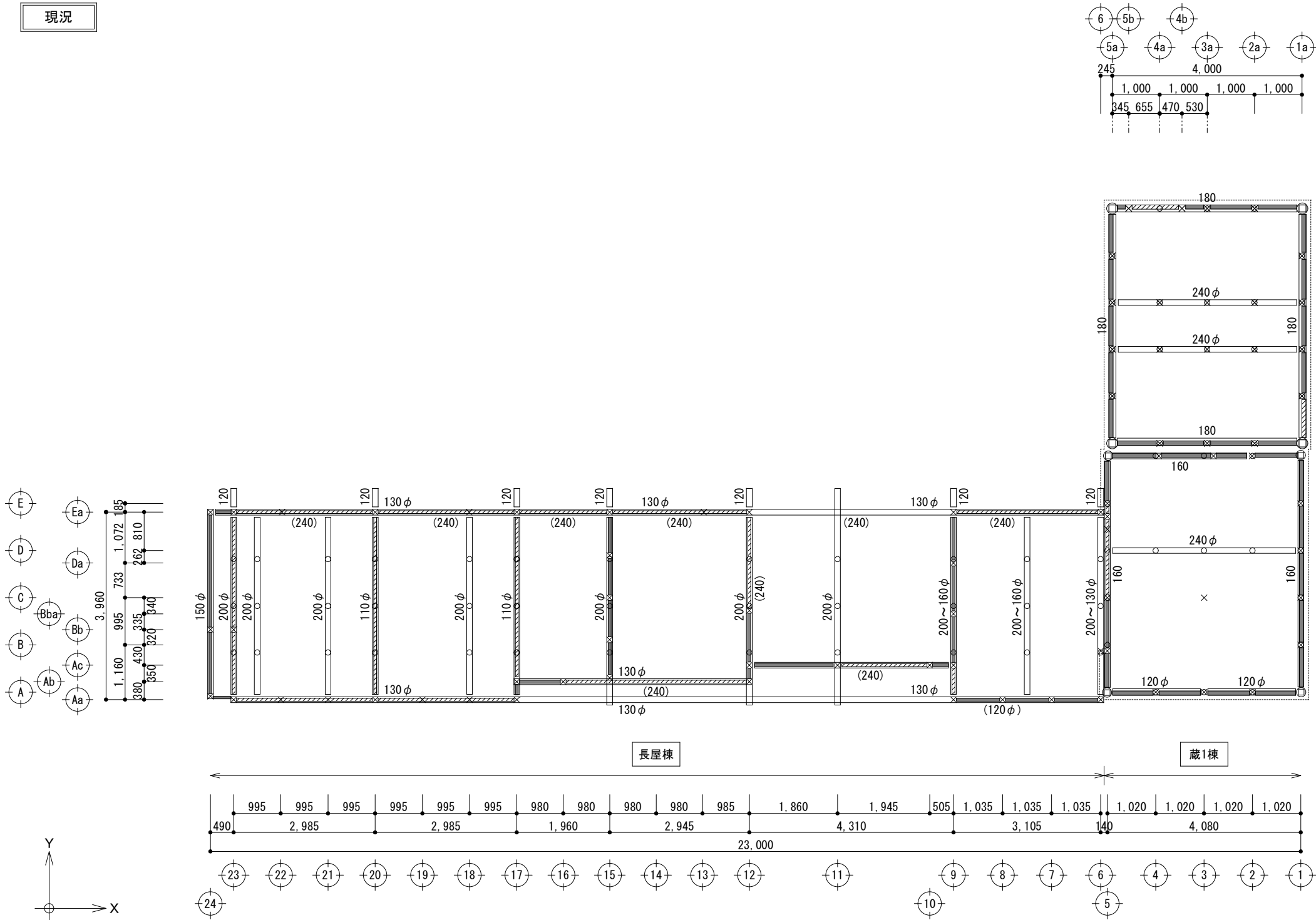
- い〜り : H12建告1460号 による柱頭・柱脚の仕口金物を示し、
柱頭・柱脚共共通の金物とする。特記なきは「い」とする。

構造： 一級建築士 第344060号 構造設計一級建築士 第9920号 石倉 和浩

	Project	羽曳野市旧浅野家住宅	Date	2024. 06.	Architect	Scale	Sheet No.	Title
			Drawing			1/100		

長屋門・蔵

〔改修〕1階 柱、耐力壁伏図



■ R階 梁床伏図 1/100

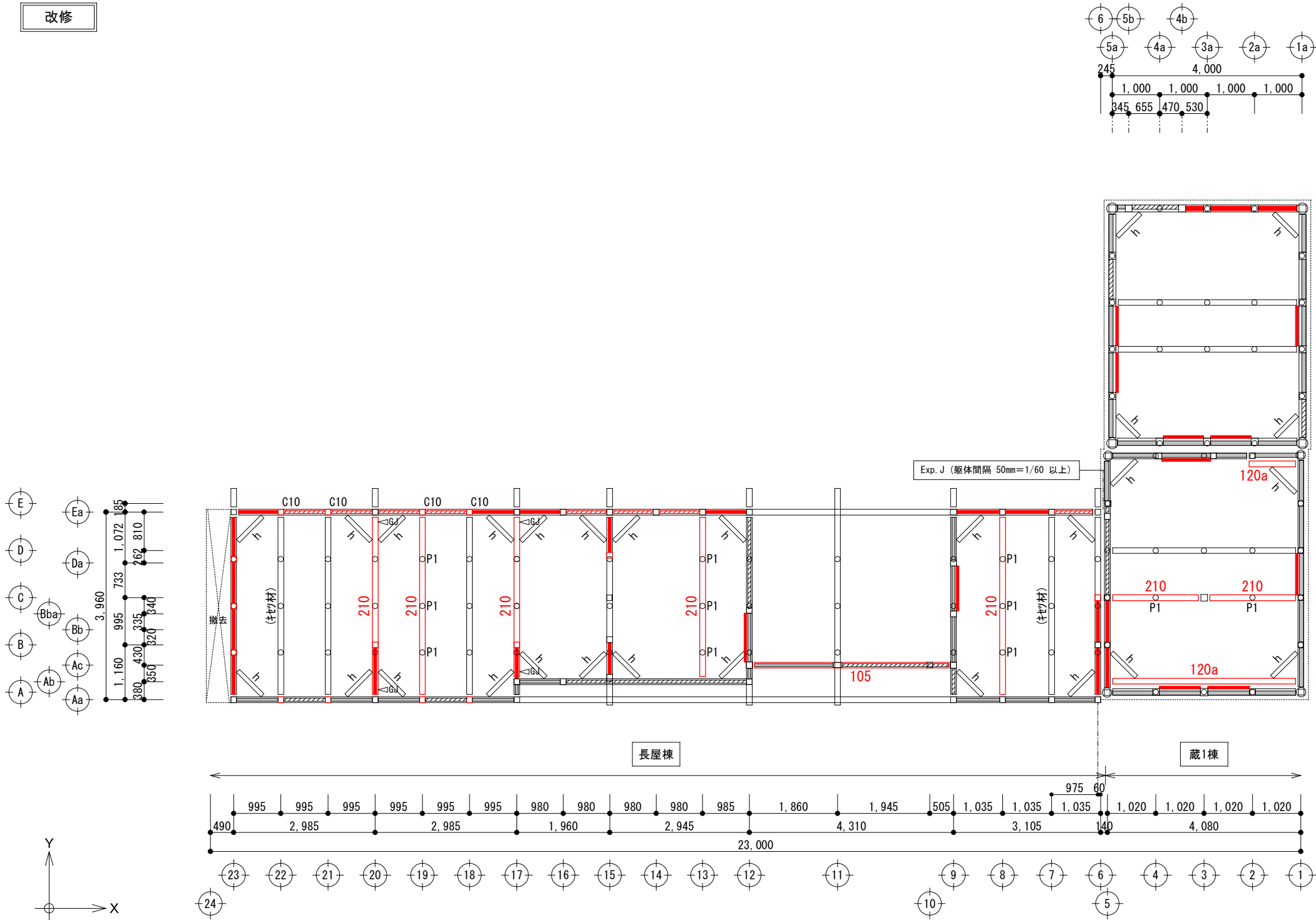
特記なき限り下記による

- 土壁を示す
- 垂壁、腰壁を示す
- 柱類を示し、柱伏図による
- 通柱を示す
- 下階柱 を示す
- 小屋束 を示す
- 梁類（マツ 無等級材）を示す
- 梁類は、梁幅 120 とし、各数値は 梁せい を示す
- () 内数値は FL梁レベル下部に位置する 梁せい を示す

○ *印は推定した符号を示す
※受領資料および現地調査を基に作成

構造： 一級建築士 第344060号 構造設計一級建築士 第9920号 石倉 和浩

	Project	Date	2024. 06.	Architect	Scale	Sheet No.	Title
		Drawing		Check	1/100	S-15	
		長屋門・蔵					
		現況 R階 梁床伏図					



■ R階 梁床伏図 1/100

特記なき限り下記による

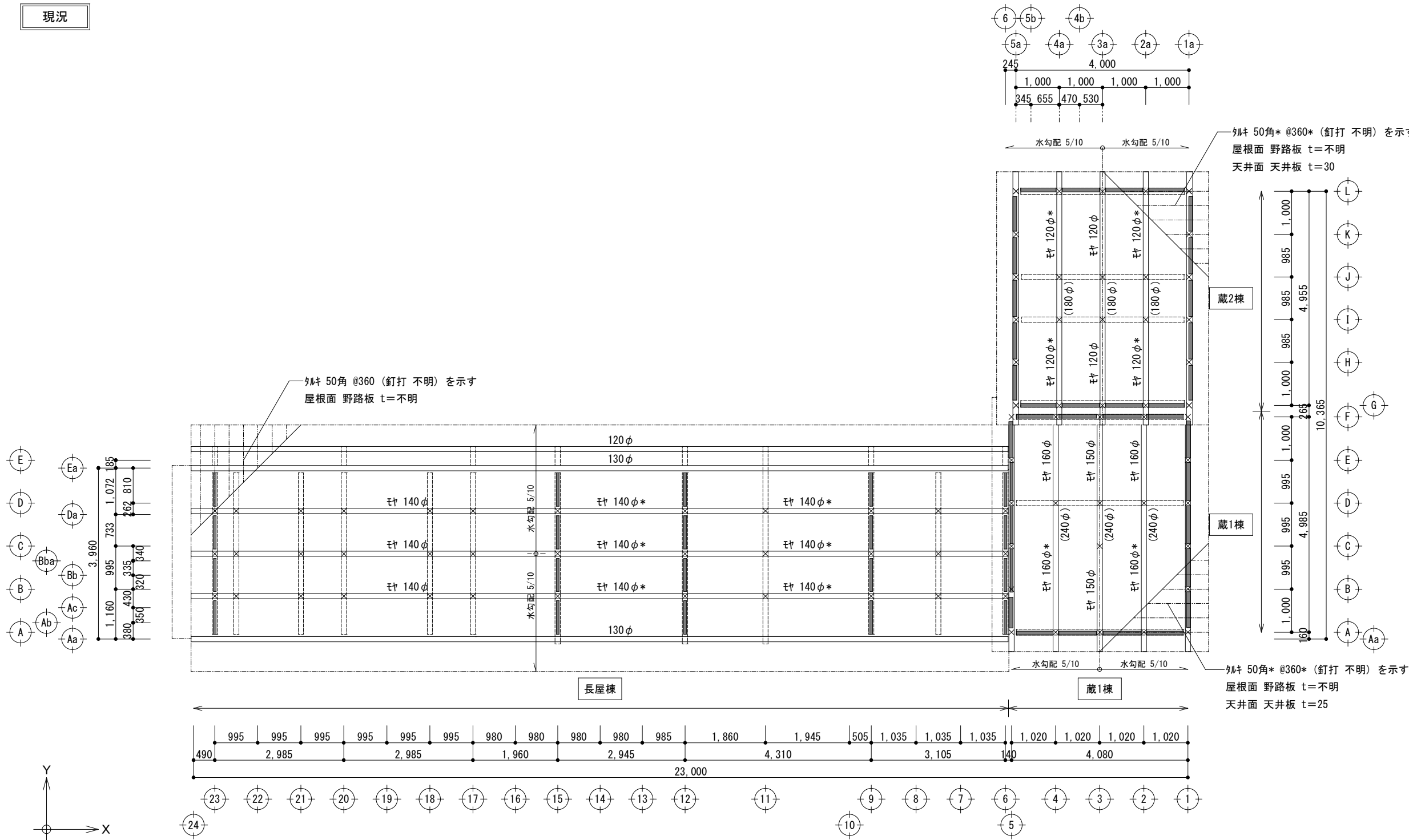
- 梁 補強（無等級材 ペイマツ）E100以上
梁幅 120、各数値は 梁せい を示す
- 120a : 添え梁 補強 (BxD=120×120)
- 図示サイズは、梁の最小断面を示し、既設部材に欠損、劣化等が無い場合、転用も可とする。
欠損、劣化等がある場合、設計者に相談のこと

＜天井面 水平構面＞ 火打材

- h : 木製火打（スギ以上）90×90、又は、
Zマーク鋼製火打同等品とする
- GJ は、梁受仕口金物を示し、
短期許容引張耐力 7.5kN以上とする。
(=仕口金物「に」 同等品)
- P1 : 小屋束 新設 105×105（無等級材 スギ以上）

構造： 一級建築士 第344060号 構造設計一級建築士 第9920号 石倉 和浩

	Project	Date	2024. 06.	Architect	Scale	Sheet No.	Title
		Drawing		Check	1/100	S-16	
		羽曳野市旧浅野家住宅		長屋門・蔵			
				[改修] R階 梁床伏図			



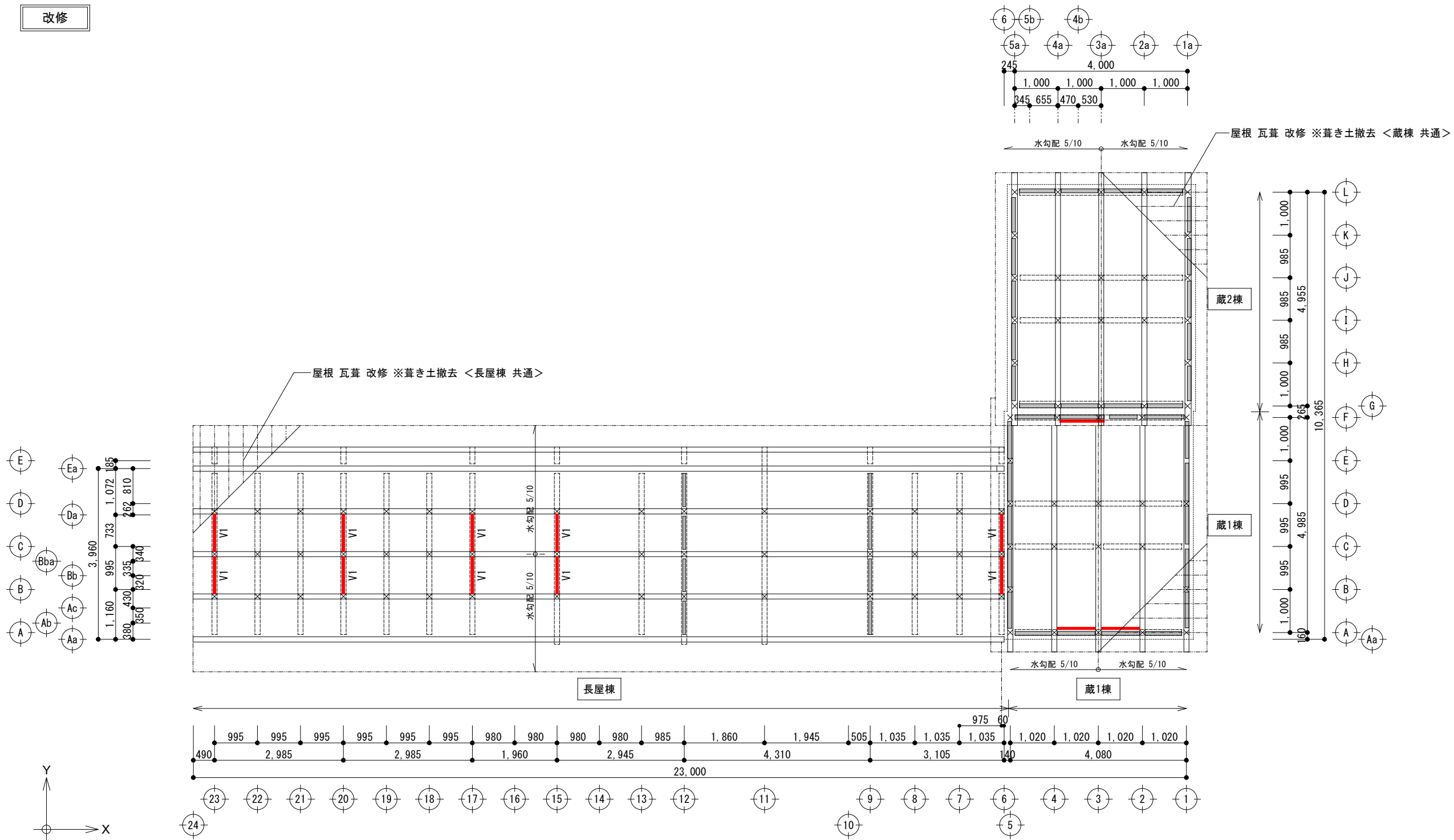
■ 屋根伏図 1/100

- 特記なき限り下記による
- 土壁を示す
 - × 下階柱 を示す
 - 梁類 (マツ 無等級材) を示す
 - 梁類は、梁幅 120 とし、各数値は 梁せい を示す
 - () 内数値は 屋根レベル下部の地棟の 梁せい を示す
 - *印は推定した符号を示す
- ※受領資料および現地調査を基に作成

構造： 一級建築士 第344060号 構造設計一級建築士 第9920号 石倉 和浩

	Project	羽曳野市旧浅野家住宅	Date	2024. 06.	Architect	Scale	Sheet No.	Title
			Drawing			1/100		

長屋門・蔵
現況 屋根伏図



■ 屋根伏図 1/100

特記なき限り下記による

<屋根面 水平構面> 長屋棟・蔵棟 共通

○ 屋根面 構造用合板 t=12 (N50@150)

○ 垂木 (転ばし) 45x60 @500 (無等級材 ペイマツ)

N75x2本斜め打ち

○ 図示なき合板受け材は、105×105 とする

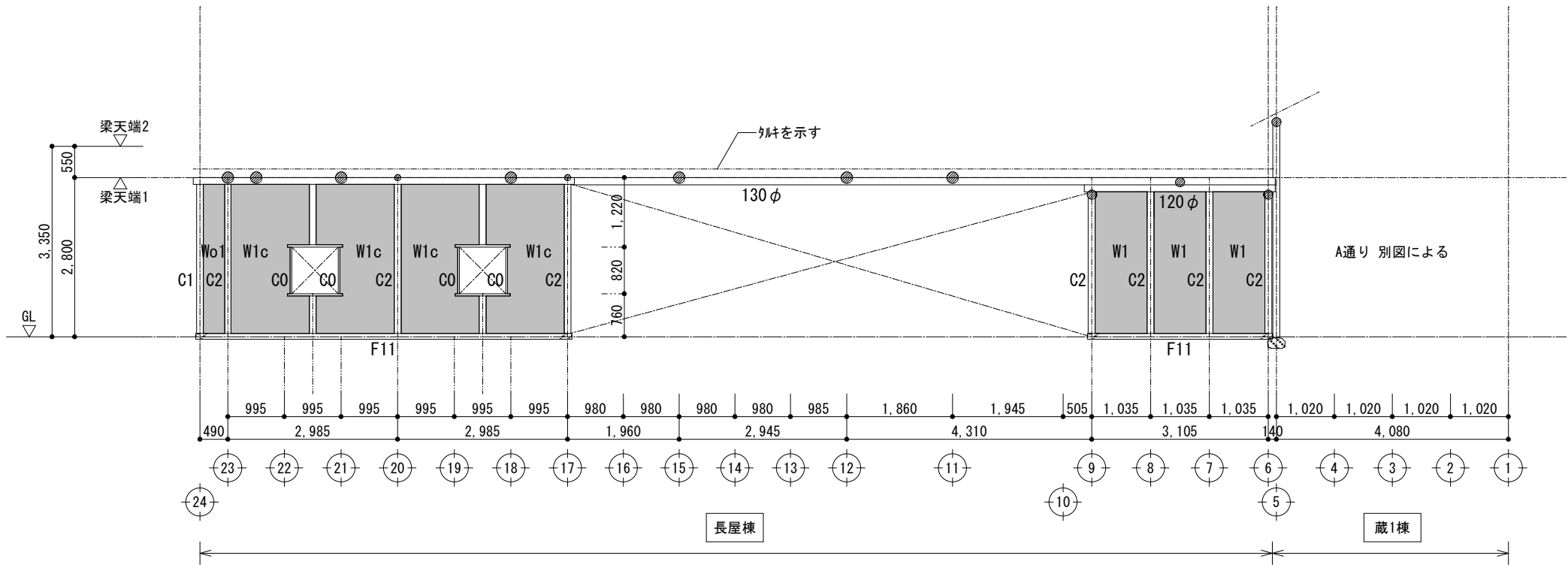
○ V1 : 小屋筋かい 30x90 シングル (無等級材 ペイマツ)

構造 : 一級建築士 第344060号 構造設計一級建築士 第9920号 石倉 和浩

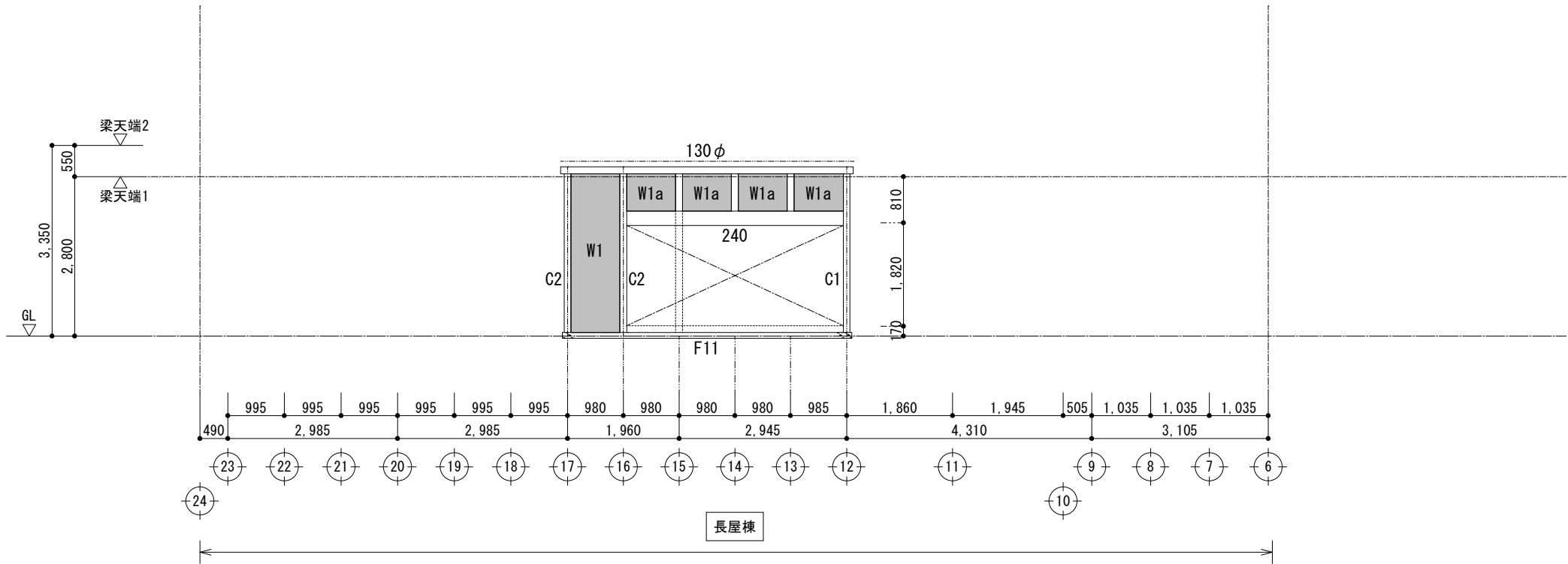
	Project	羽曳野市旧浅野家住宅	Date	2024. 06.	Architect	Scale	Sheet No.	Title
			Drawing			1/100	S-18	

長屋門・蔵

[改修] 屋根伏図



■ Aa 通り 軸組図 1/100



■ Ab 通り 軸組図 1/100

特記なき限り下記による <軸組図 共通>

壁符号

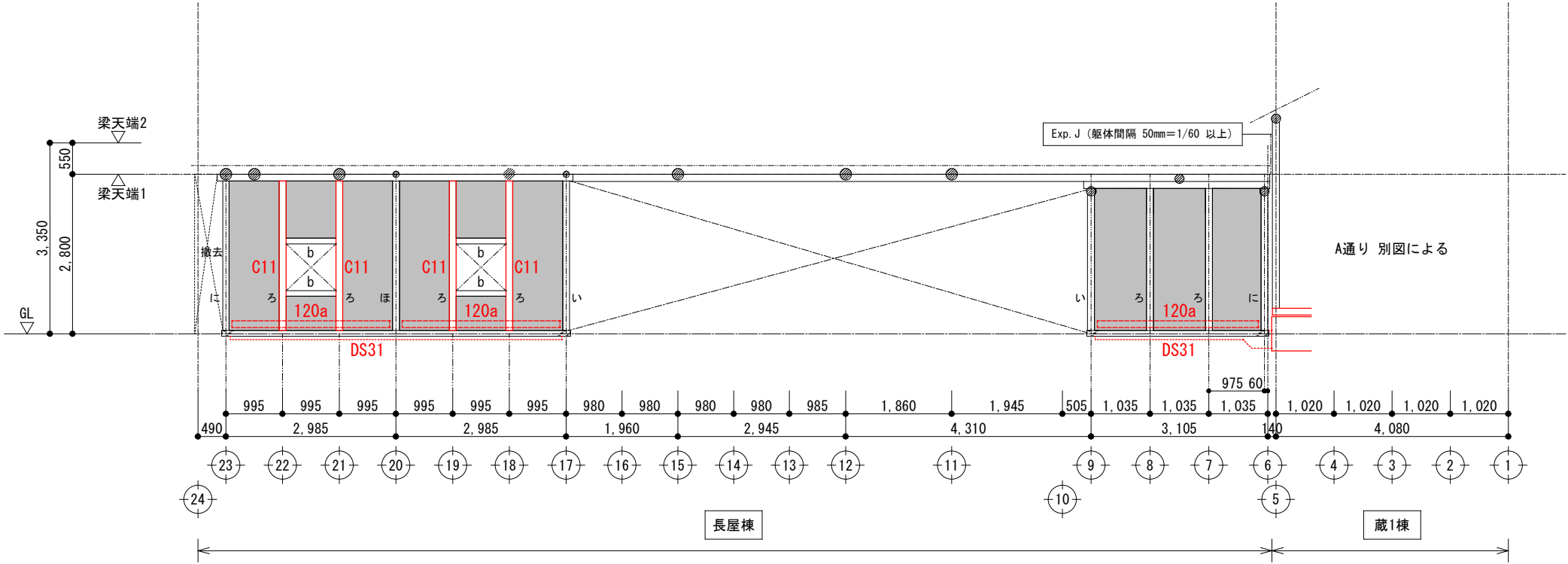
- W1 : 土壁 壁厚 70mm
- W1a : 土壁 壁厚 70mm (垂壁)
- W1b : 土壁 壁厚 70mm (腰壁)
- W1c : 土壁 壁厚 70mm (垂壁、腰壁)
- W2 : 土壁 壁厚 90mm
- W2a : 土壁 壁厚 90mm (垂壁)
- W2b : 土壁 壁厚 90mm (腰壁)
- W2c : 土壁 壁厚 90mm (垂壁、腰壁)
- Wo** : 非耐力壁扱い ※剛性考慮、耐力無視

柱符号

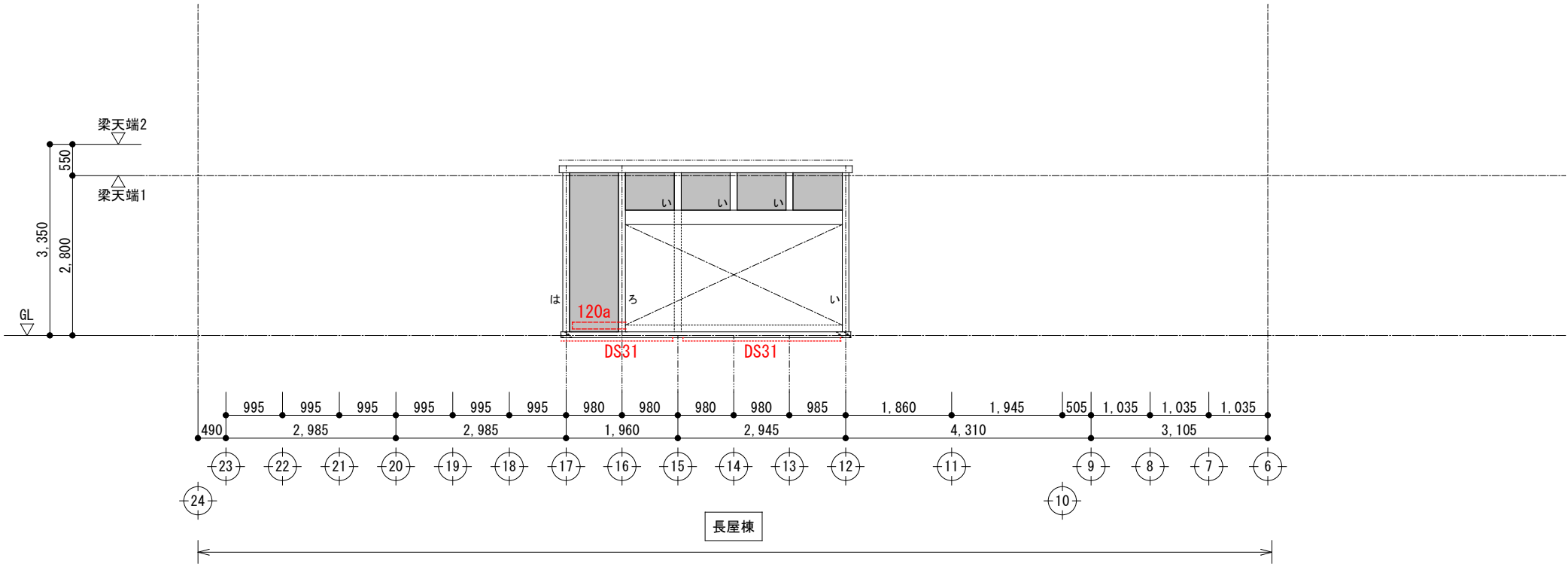
- C1 : 柱 105mm 角
- C2 : 柱 120mm 角
- C3 : 柱 135mm 角
- C4 : 柱 150mm 角
- C0 : 柱 105mm 未満 (間柱、窓枠)

- 梁類は、梁幅 120 とし、各数値は
梁せい を示す

<共通事項>
※劣化している部位は、補修、補強、または交換のこと



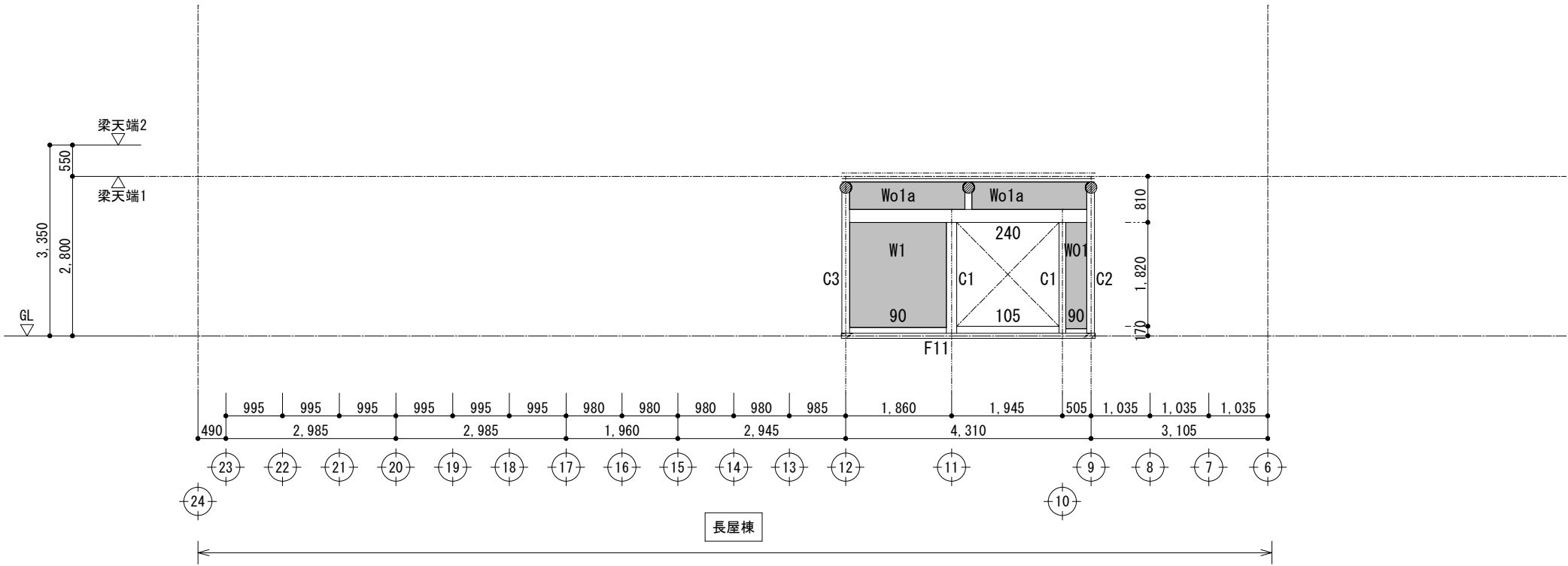
■ Aa 通り 軸組図 1/100



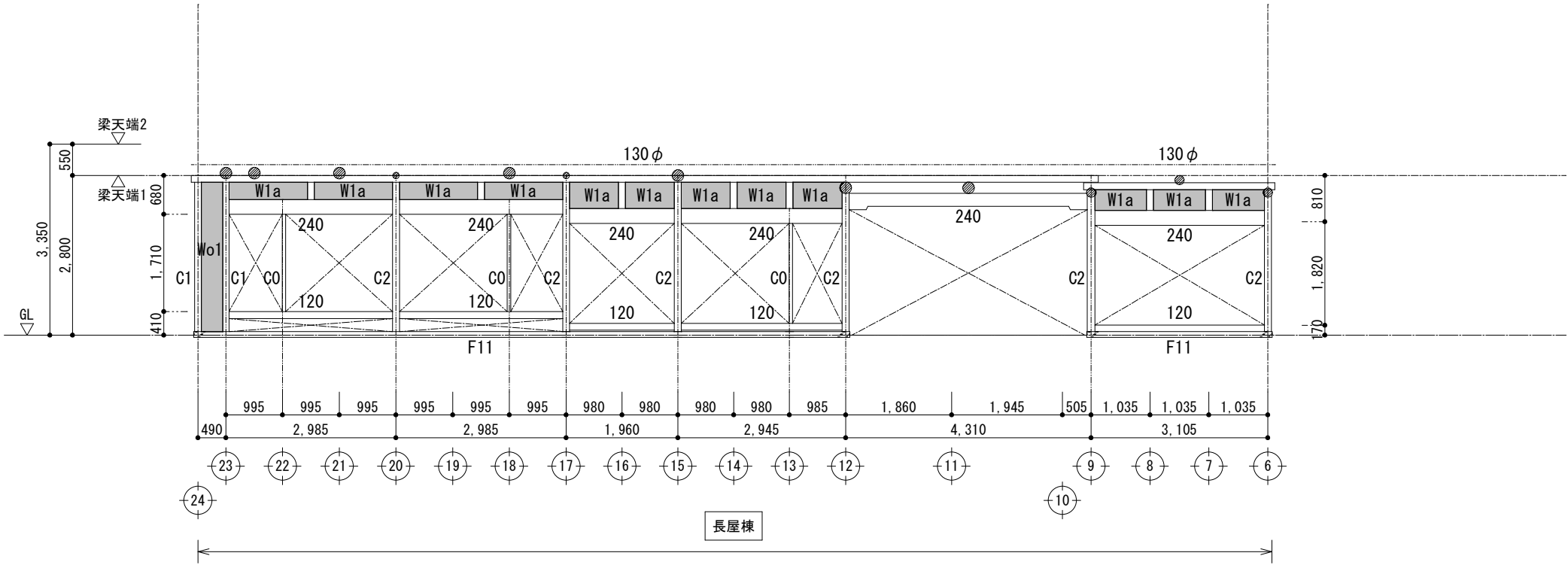
■ Ab 通り 軸組図 1/100

構造：一級建築士 第344060号 構造設計一級建築士 第9920号 石倉 和浩

	Project 羽曳野市旧浅野家住宅	Date 2024. 06.	Architect	Scale 1/100	Sheet No. S-20	Title 長屋門・蔵
		Drawing	Check			[改修] 軸組図（1）〈X方向〉



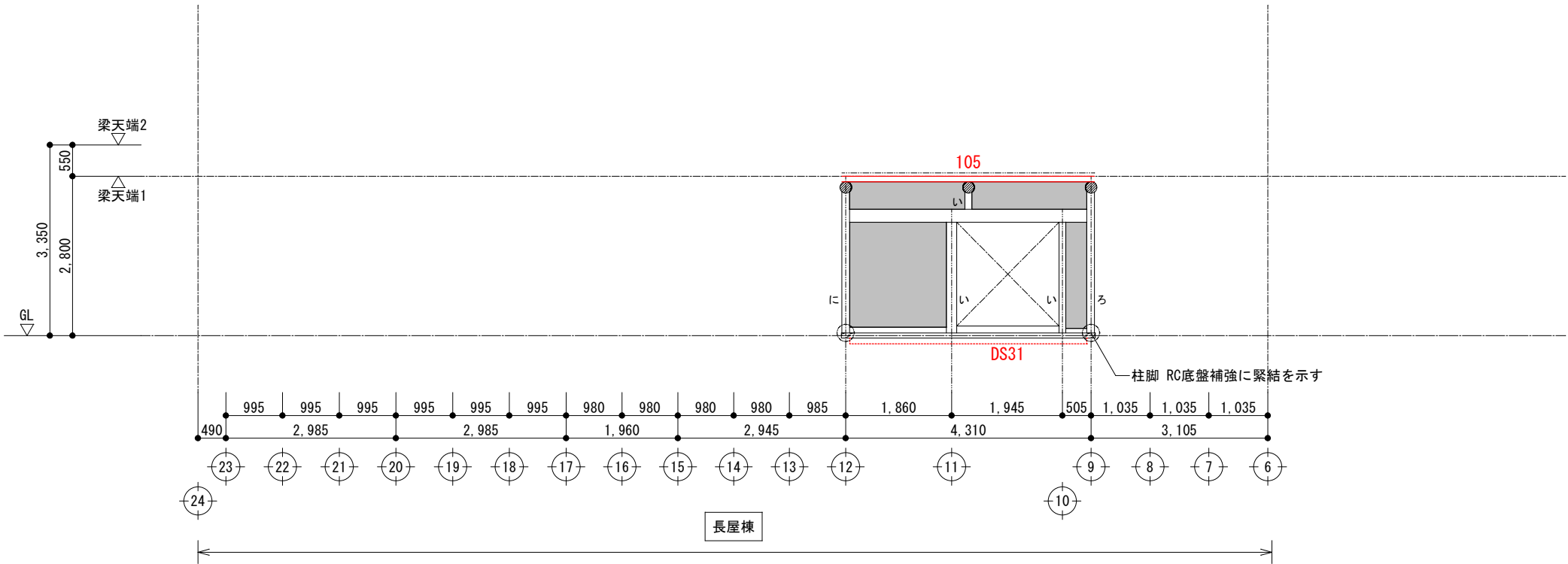
■ Ac 通り 軸組図 1/100



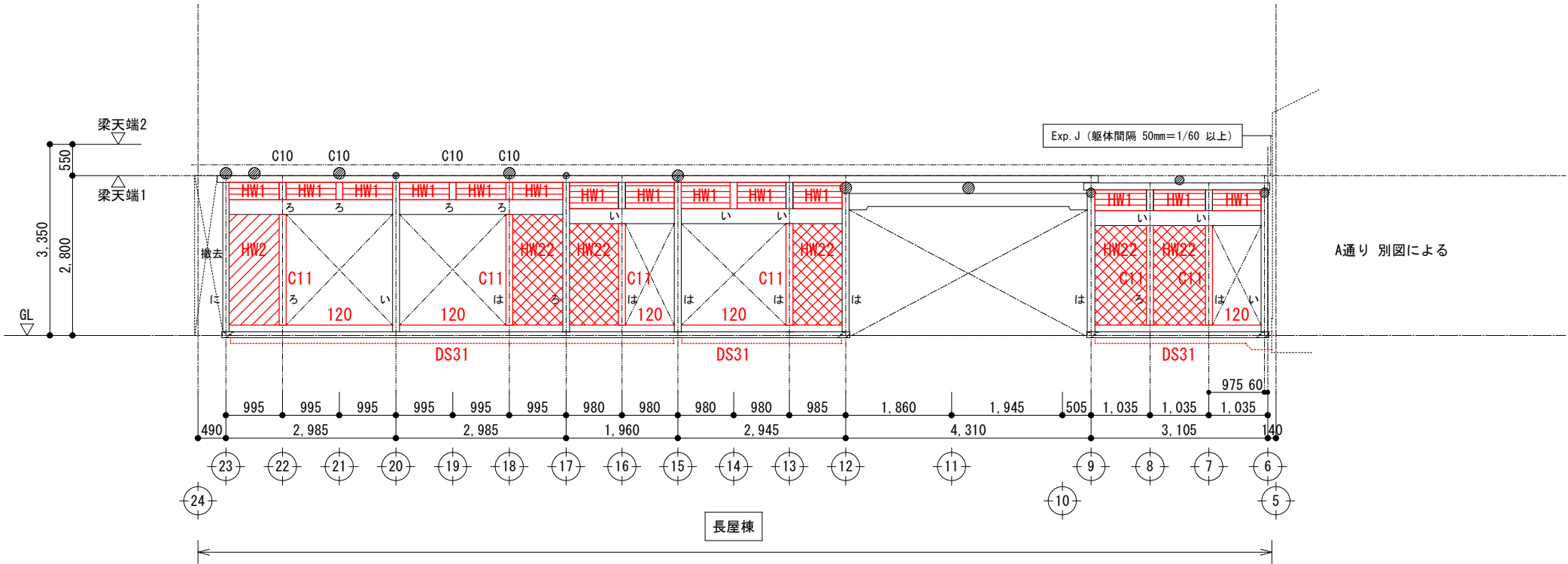
■ Ea 通り 軸組図 1/100

構造：一級建築士 第344060号 構造設計一級建築士 第9920号 石倉 和浩

	Project 羽曳野市旧浅野家住宅	Date 2024. 06.	Architect	Scale 1/100	Sheet No. S-21	Title 長屋門・蔵
		Drawing	Check			現況 軸組図 (2) <X方向>



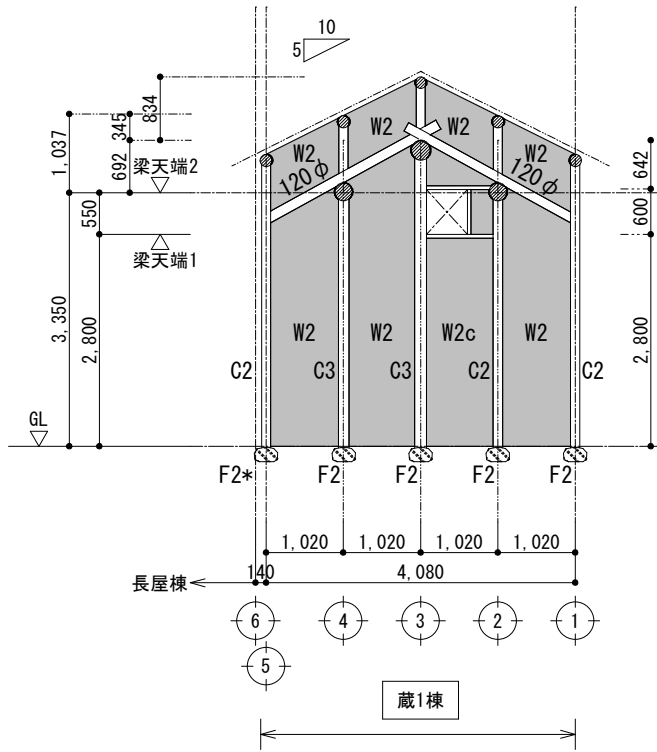
■ Ac 通り 軸組図 1/100



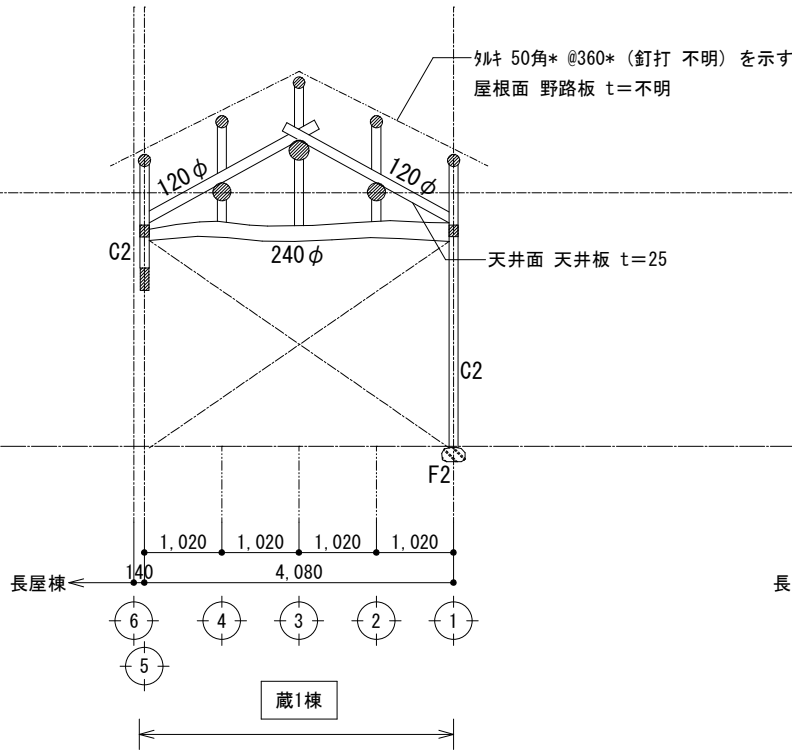
■ Ea 通り 軸組図 1/100

構造：一級建築士 第344060号 構造設計一級建築士 第9920号 石倉 和浩

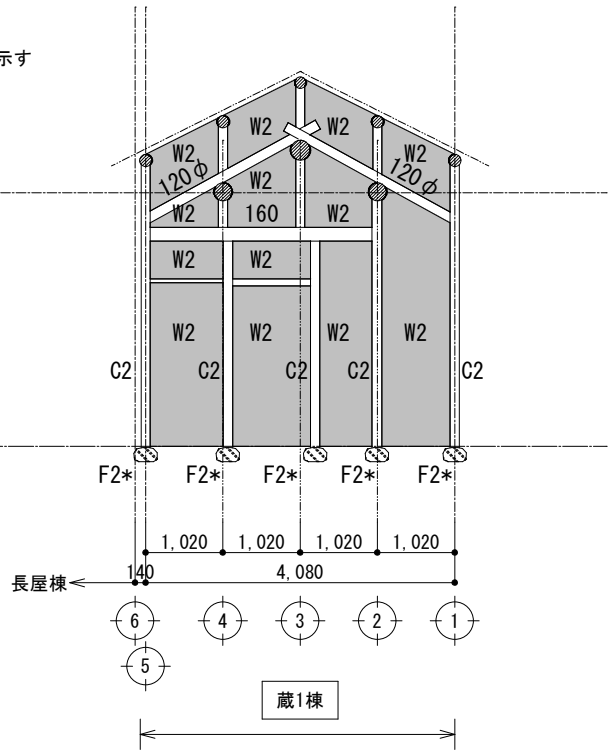
	Project 羽曳野市旧浅野家住宅	Date 2024. 06.	Architect	Scale 1/100	Sheet No. S-22	Title 長屋門・蔵
		Drawing	Check			[改修] 軸組図 (2) <X方向>



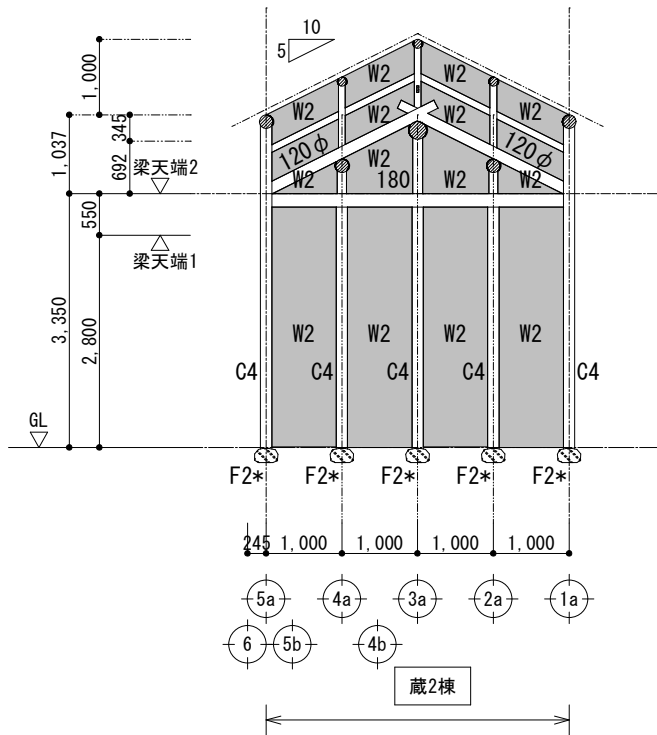
■ A 通り 軸組図 1/100



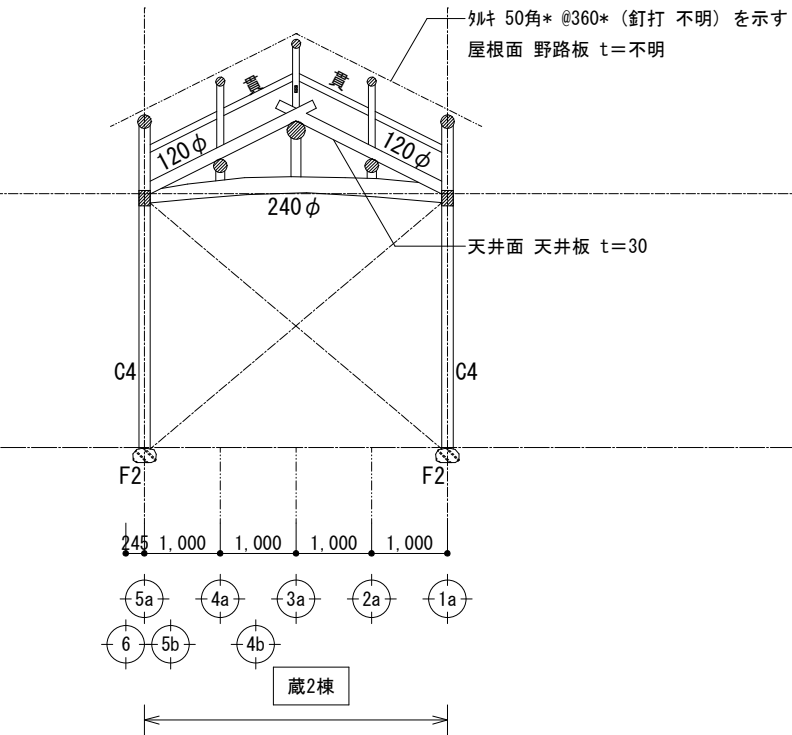
■ D 通り 軸組図 1/100



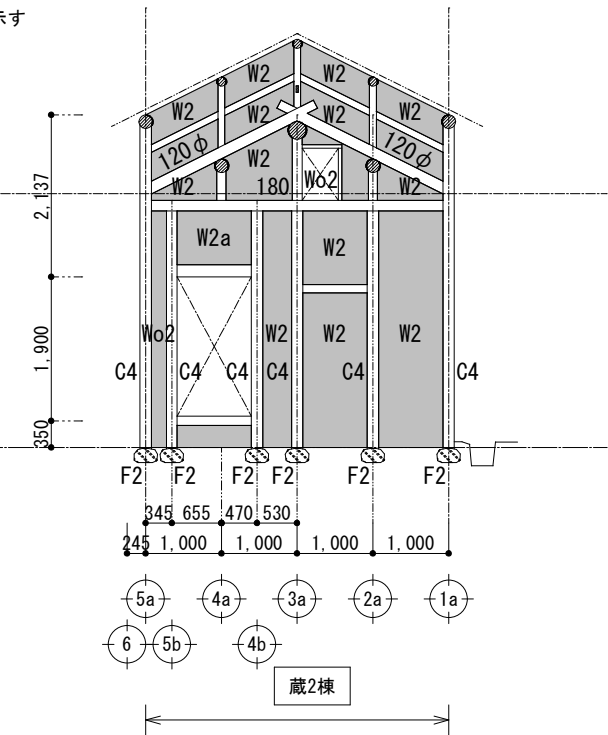
■ F 通り 軸組図 1/100



■ G 通り 軸組図 1/100



■ J 通り 軸組図 1/100

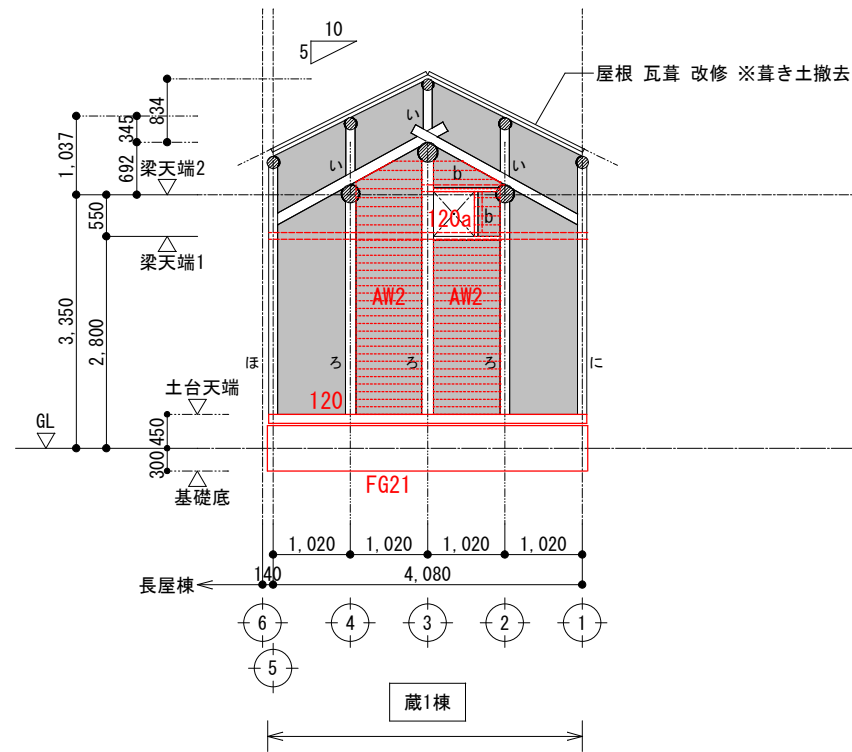


■ L 通り 軸組図 1/100

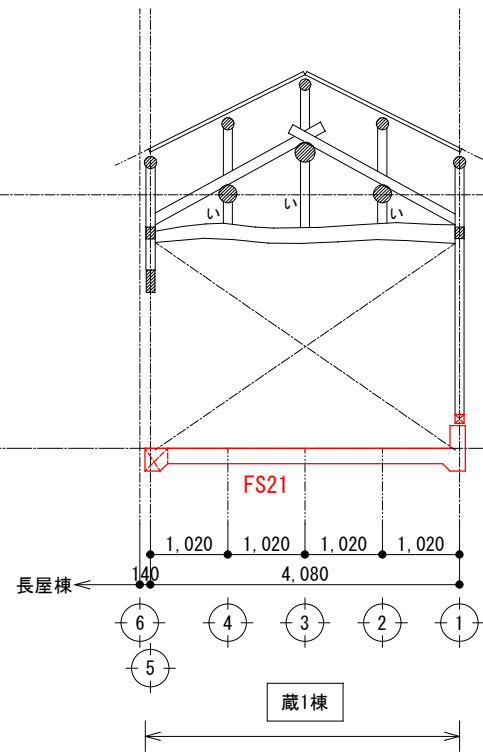
構造：一級建築士 第344060号 構造設計一級建築士 第9920号 石倉 和浩

Project	羽曳野市旧浅野家住宅	Date	2024. 06.	Architect	Scale	Sheet No.	Title
		Drawing		Check			

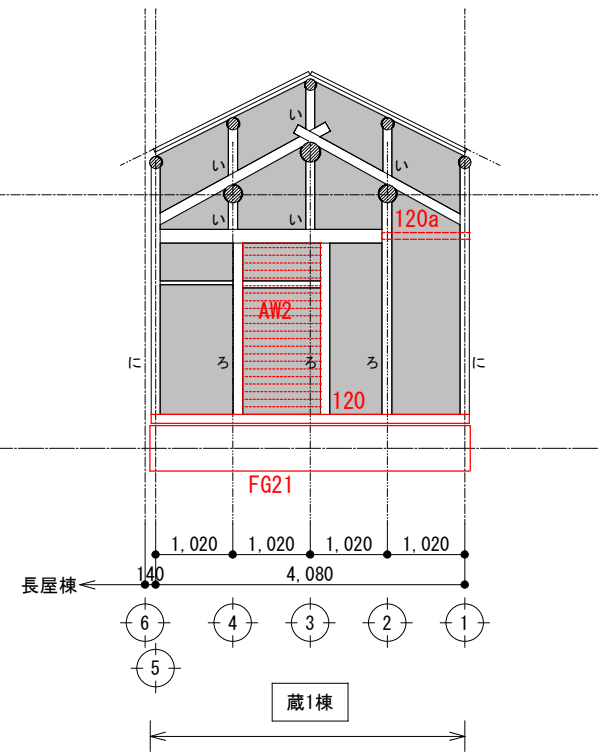
長屋門・蔵
現況 軸組図 (3) <X方向>



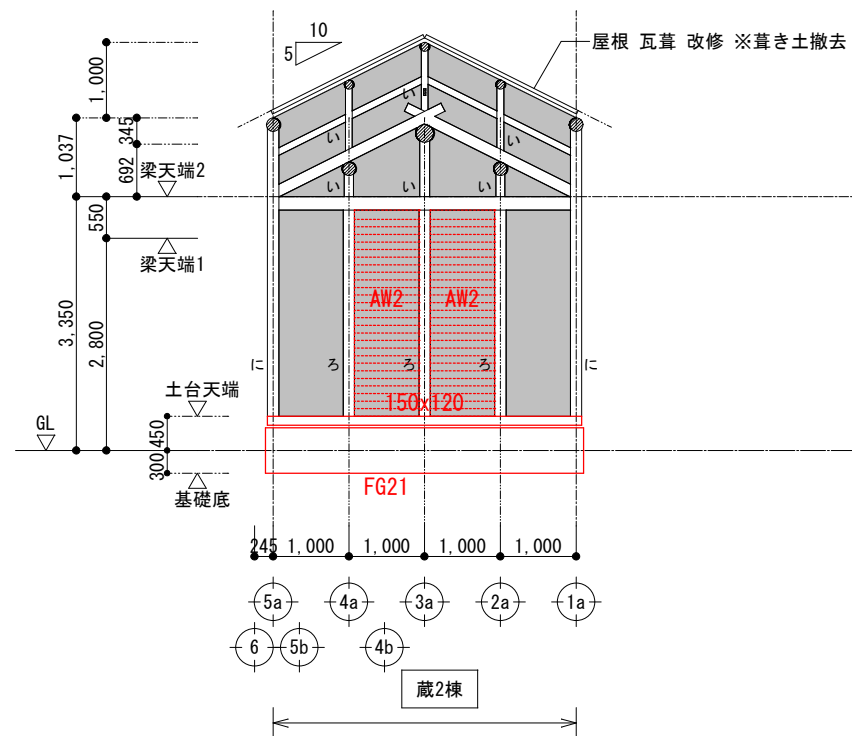
■ A 通り 軸組図 1/100



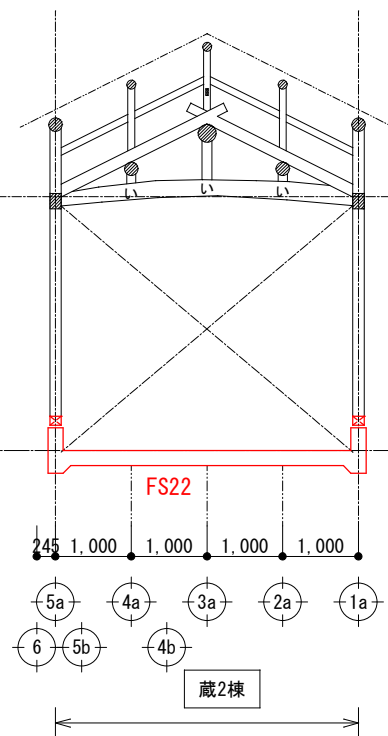
■ D 通り 軸組図 1/100



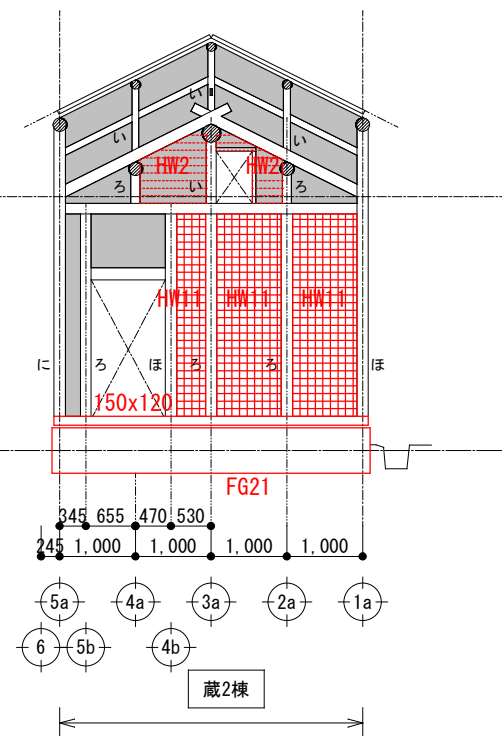
■ F 通り 軸組図 1/100



■ G 通り 軸組図 1/100



■ J 通り 軸組図 1/100



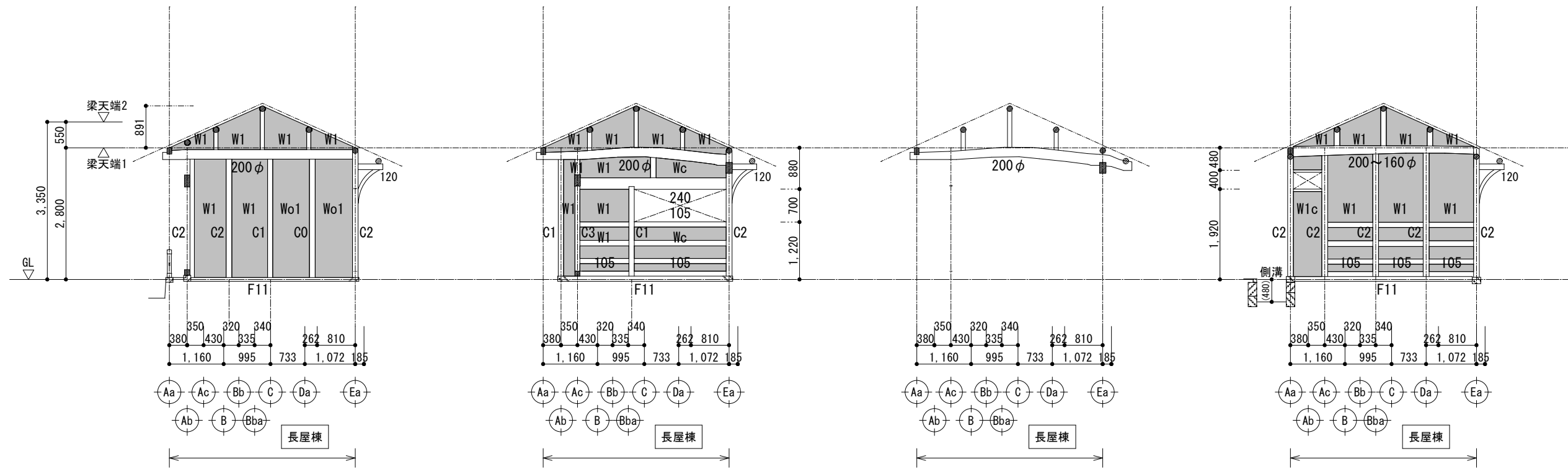
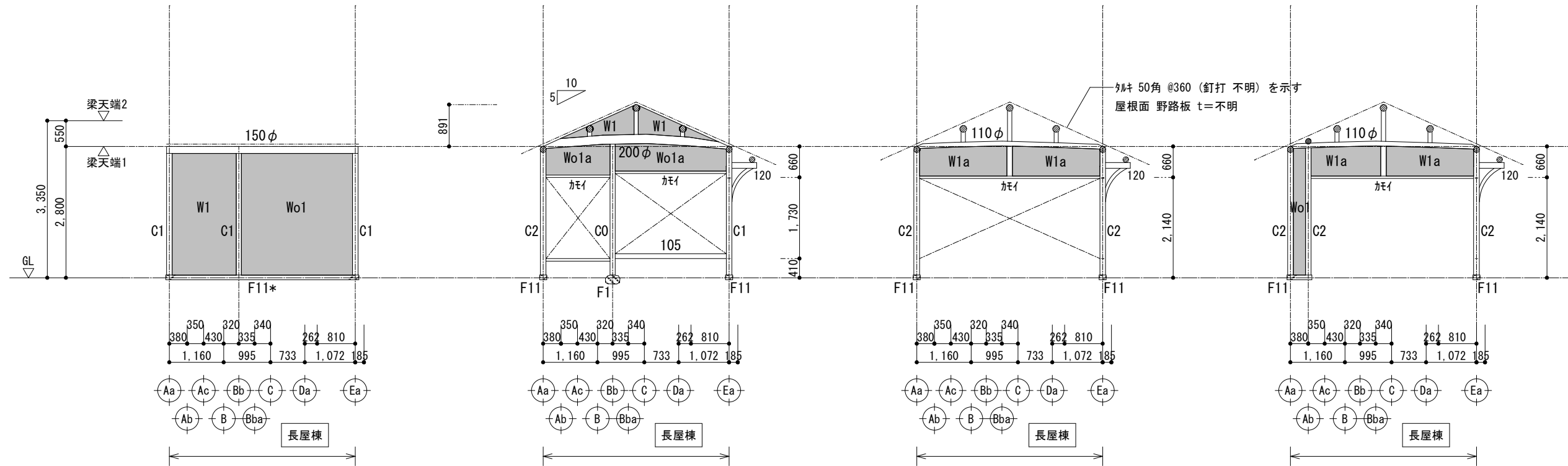
■ L 通り 軸組図 1/100

構造：一級建築士 第344060号 構造設計一級建築士 第9920号 石倉 和浩

Project
羽曳野市旧浅野家住宅Date
2024. 06.

Architect

Scale
1/100Sheet No.
S-24Title
長屋門・蔵
[改修] 軸組図 (3) <X方向>

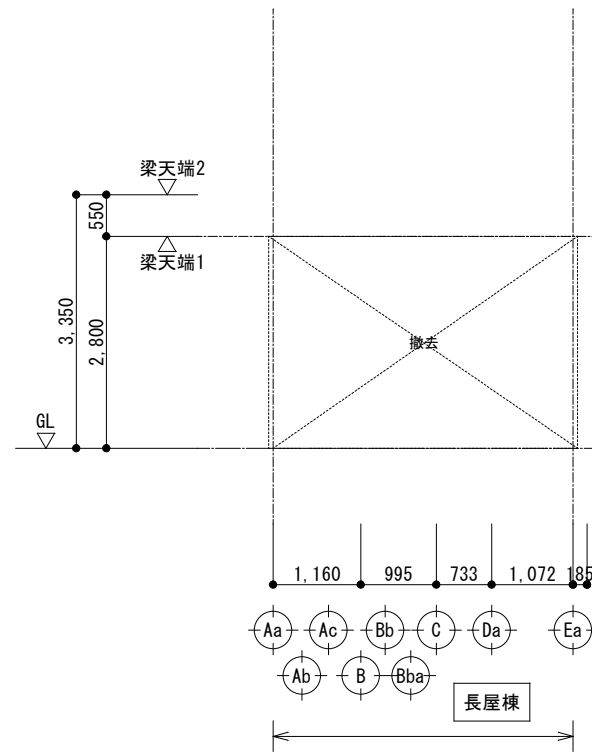


構造：一級建築士 第344060号 構造設計一級建築士 第9920号 石倉 和浩

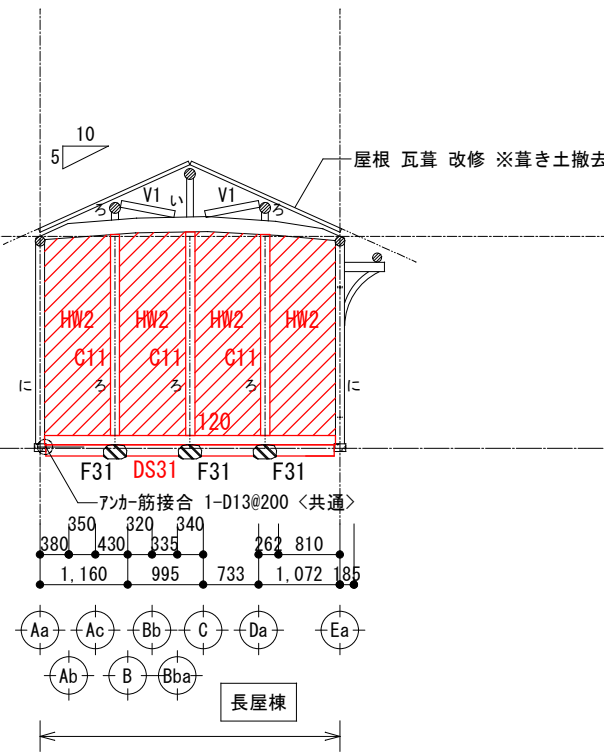
Project
羽曳野市旧浅野家住宅Date
2024. 06.

Architect

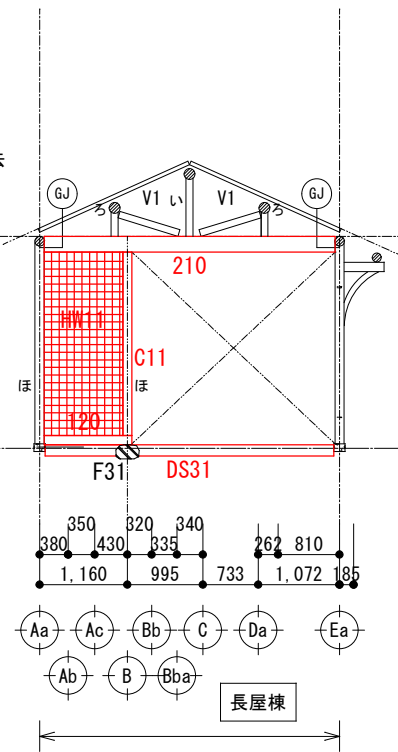
Scale
1/100Sheet No.
S-25Title
長屋門・蔵
現況 軸組図 (4) <Y方向>



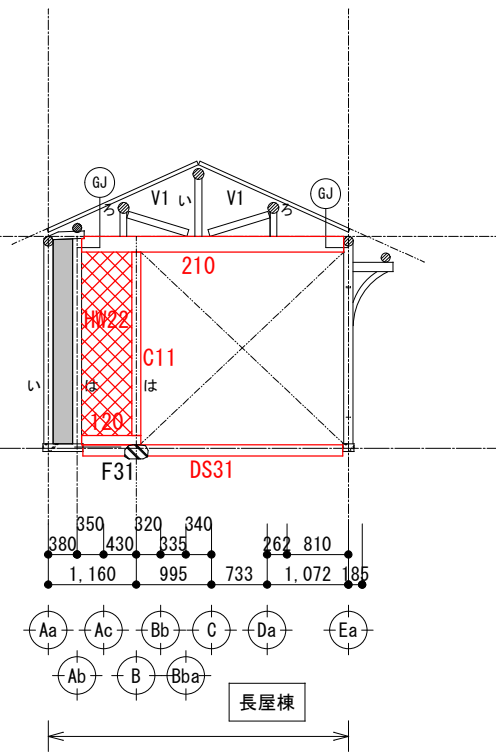
■ 24 通り 軸組図 1/100



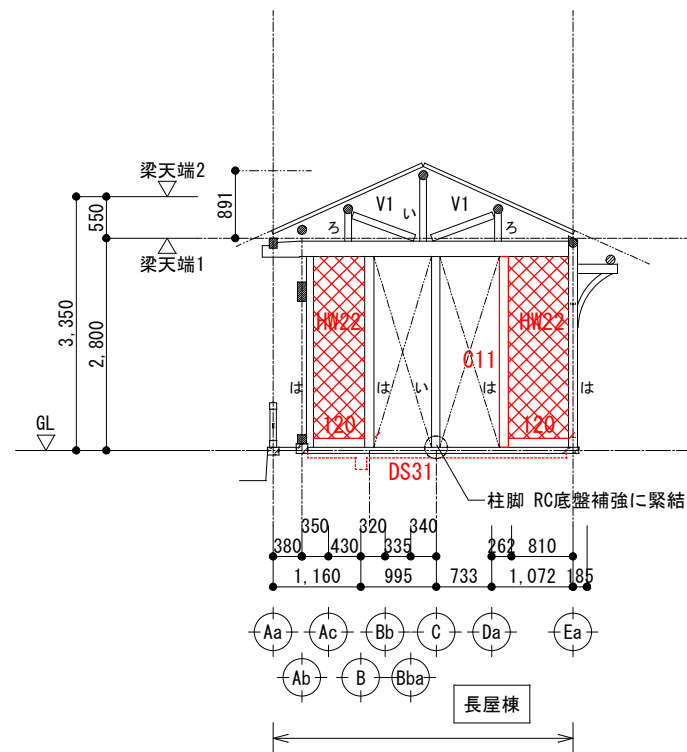
■ 23 通り 軸組図 1/100



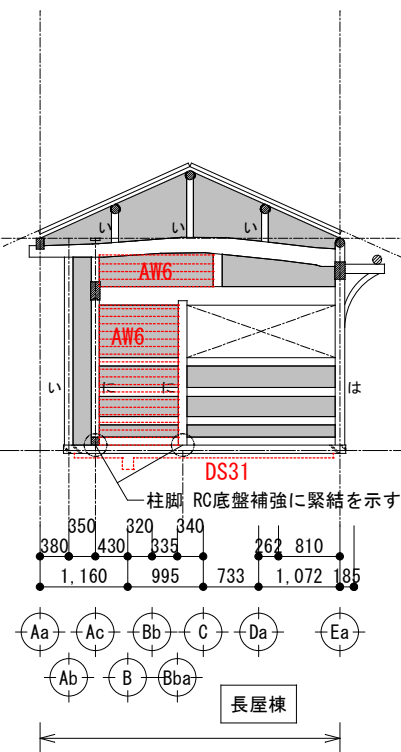
■ 20 通り 軸組図 1/100



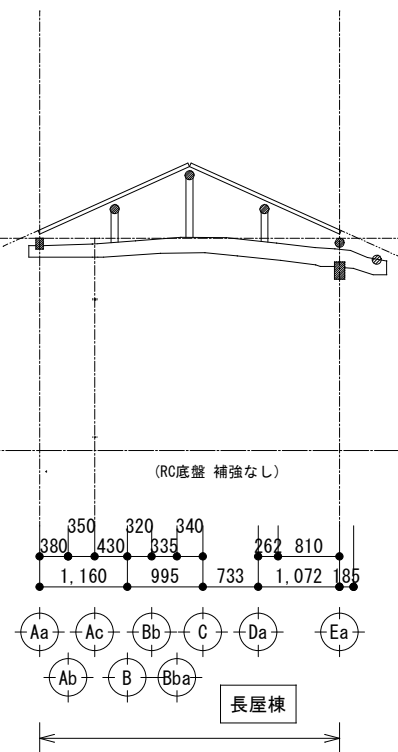
■ 17 通り 軸組図 1/100



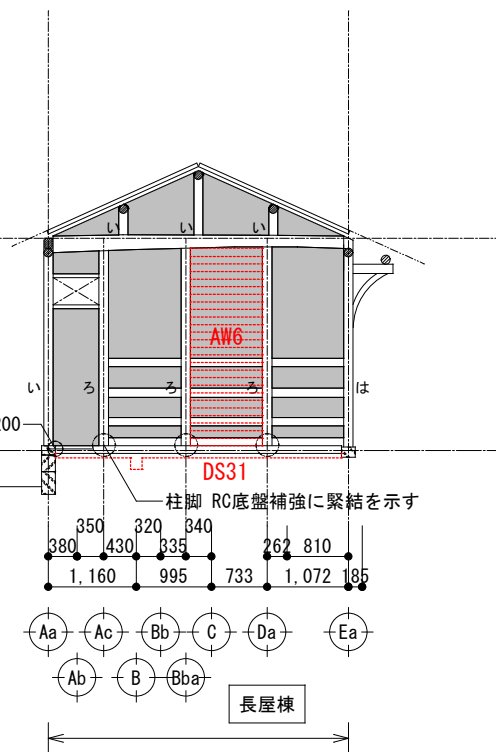
■ 15 通り 軸組図 1/100



■ 12 通り 軸組図 1/100



■ 11 通り 軸組図 1/100



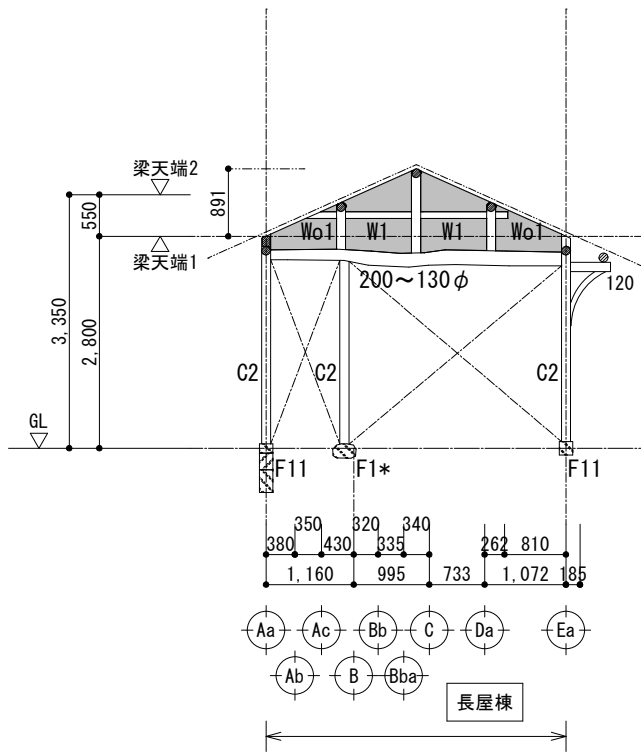
■ 9 通り 軸組図 1/100

構造：一級建築士 第344060号 構造設計一級建築士 第9920号 石倉 和浩

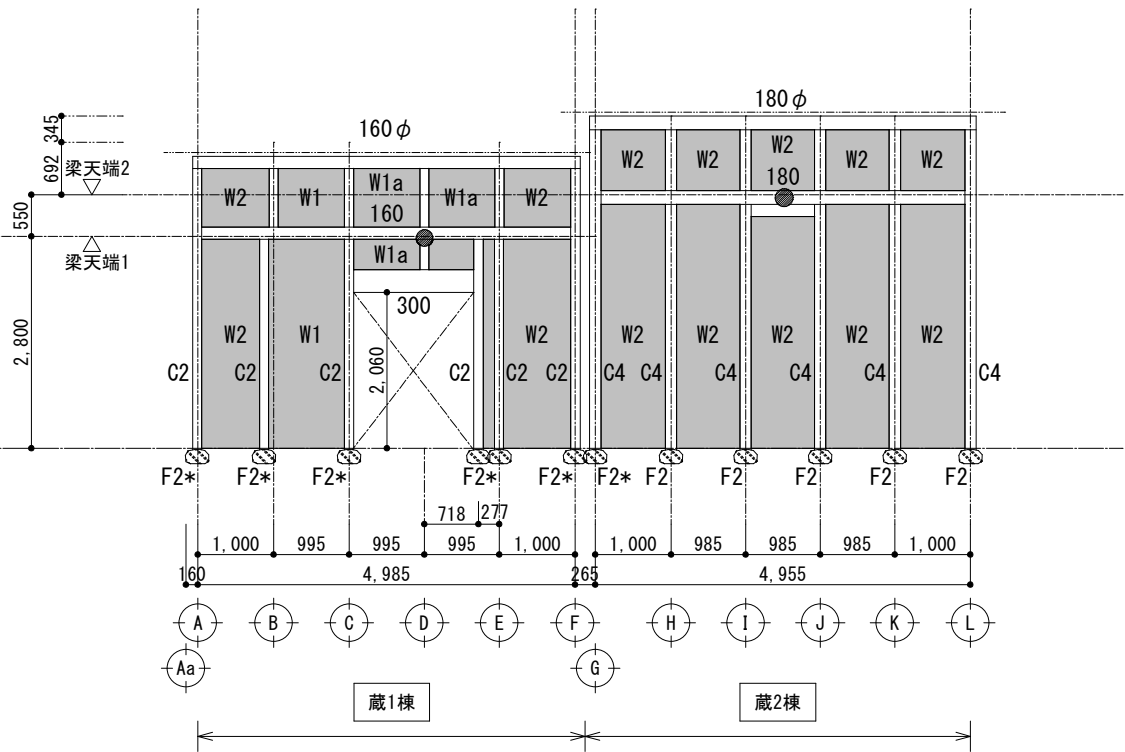
Project
羽曳野市旧浅野家住宅Date
2024. 06.

Architect

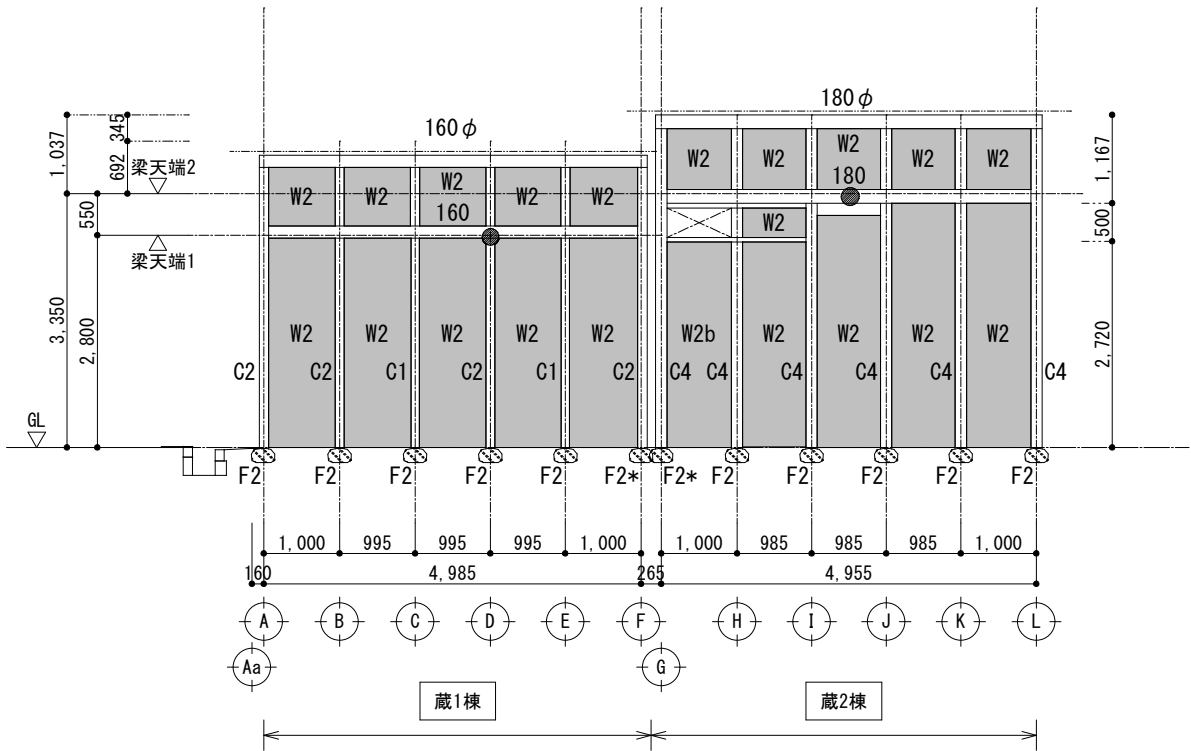
Scale
1/100Sheet No.
S-26Title
長屋門・蔵
[改修] 軸組図 (4) <Y方向>



■ 6 通り 軸組図 1/100



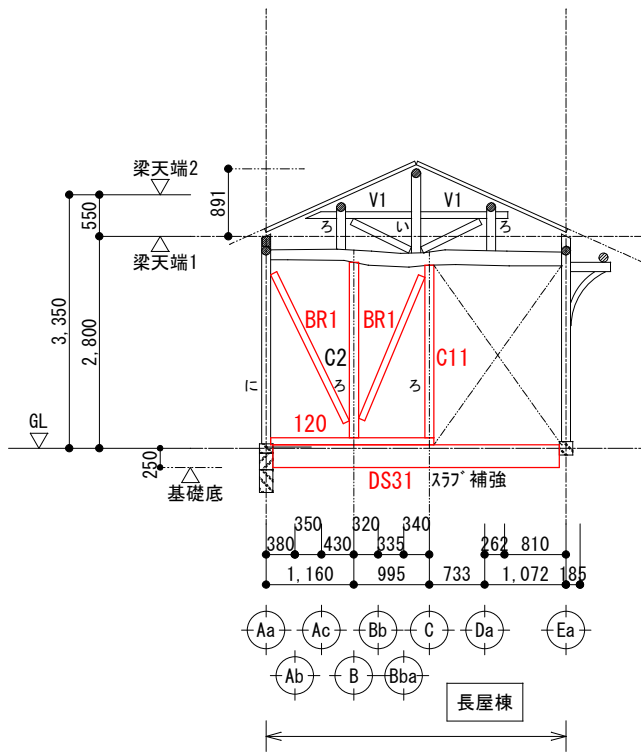
■ 5～5a 通り 軸組図 1/100



■ 1～1a 通り 軸組図 1/100

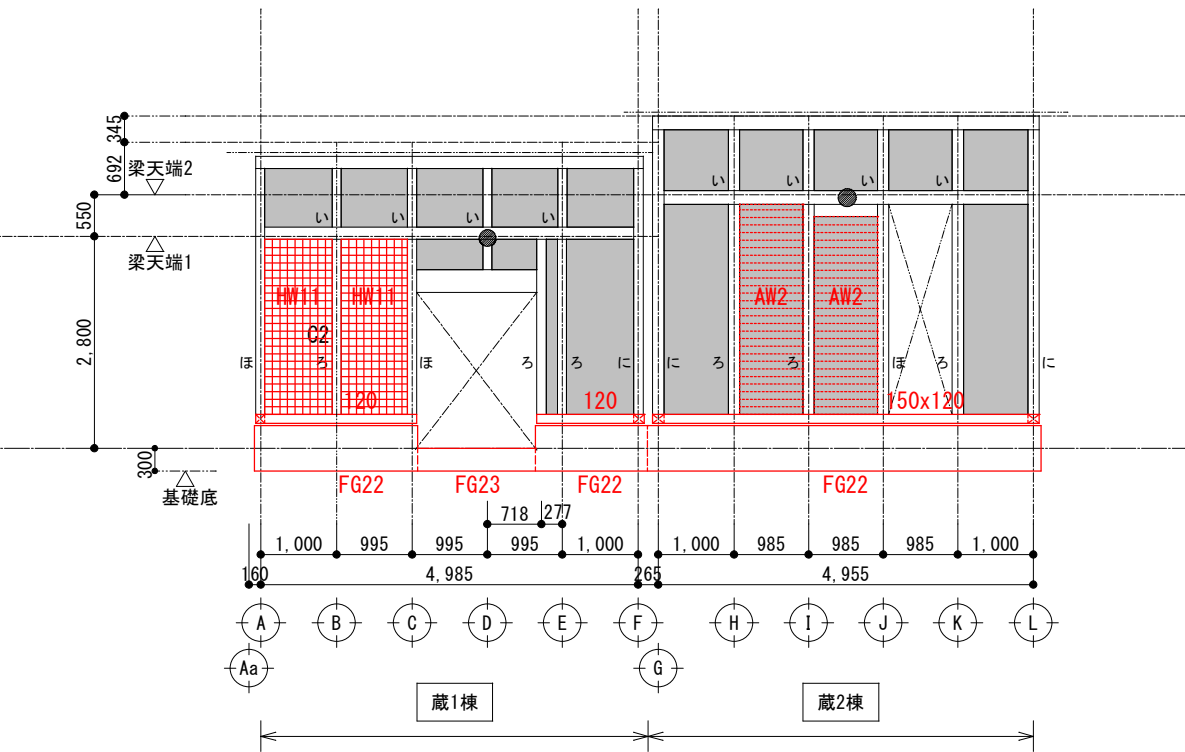
構造：一級建築士 第344060号 構造設計一級建築士 第9920号 石倉 和浩

	Project	羽曳野市旧浅野家住宅	Date	2024. 06.	Architect	Scale	Sheet No.	Title
			Drawing			1/100		
							S-27	長屋門・蔵 現況 軸組図（5）〈Y方向〉



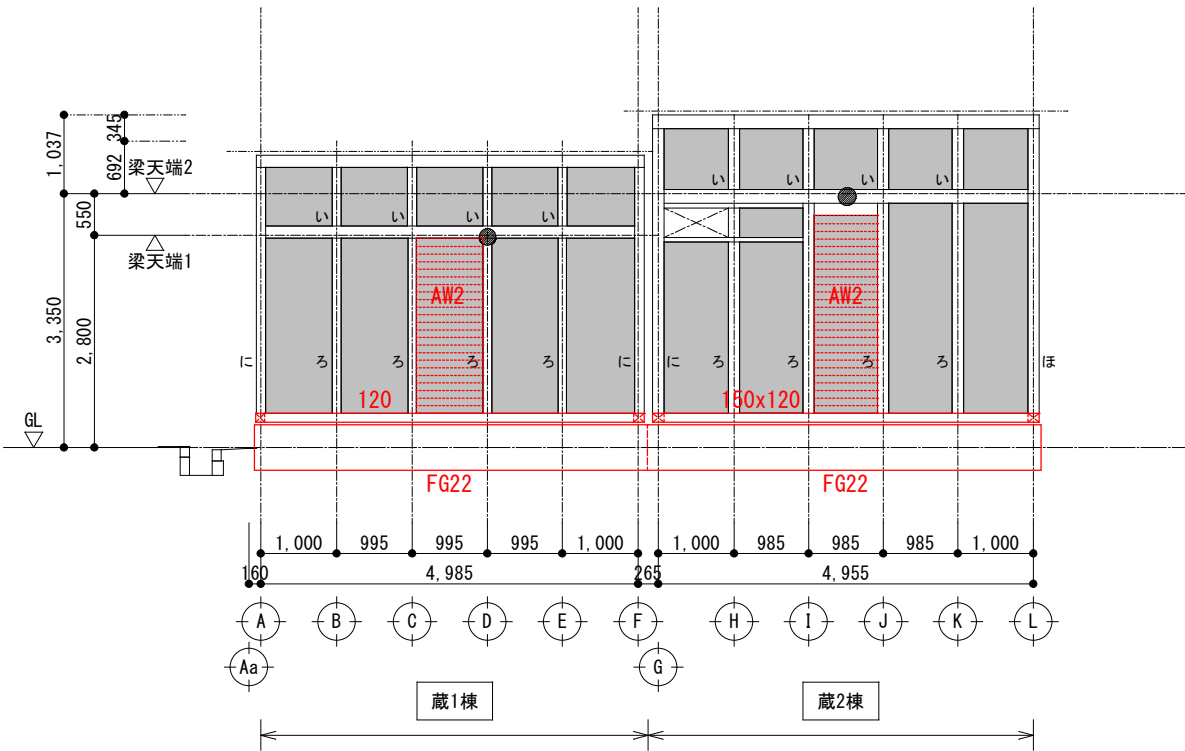
■ 6 通り 軸組図 1/100

※蔵1棟と長屋棟 躯体間隔 50mm=1/60 以上



■ 5~5a 通り 軸組図 1/100

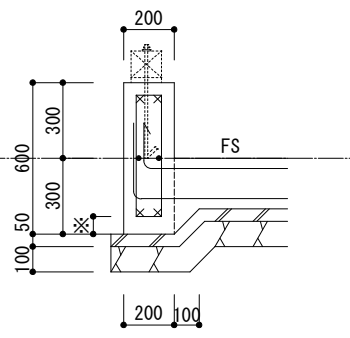
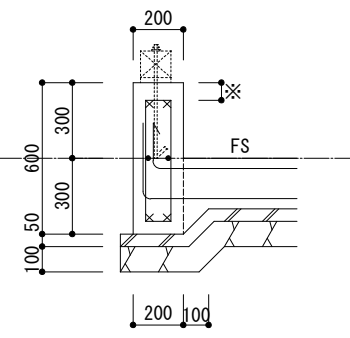
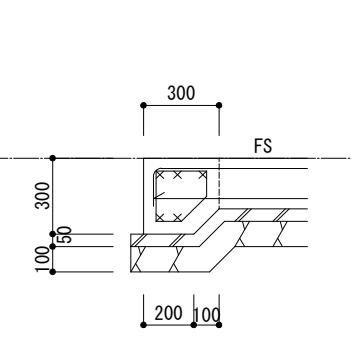
※蔵1棟と長屋棟 躯体間隔 50mm=1/60 以上



■ 1~1a 通り 軸組図 1/100

構造：一級建築士 第344060号 構造設計一級建築士 第9920号 石倉 和浩

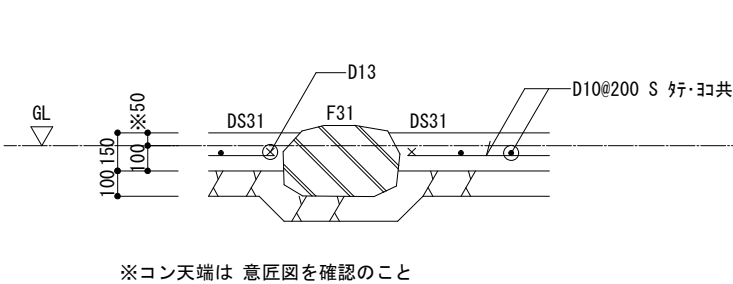
	Project	羽曳野市旧浅野家住宅	Date	2024. 06.	Architect	Scale	Sheet No.	Title
			Drawing			1/100		
					Check		S-28	長屋門・蔵 [改修] 軸組図 (5) <Y方向>

符号	FG21	FG22	FG23
B × D	200×600	200×600	300～200×300
位置	全域	全域	
断面	主筋の位置は 上・下端筋共 FG21 が上側とする。 	※印の主筋位置を調整のこと 	
上端筋	2-D13	2-D13	3-D13
下端筋	2-D13	2-D13	2-D13
S T P	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@150
腹筋	2-D10	2-D10	—
備考	蔵1棟, 蔵2棟	主筋位置以外の断面は FG21 に同じ	蔵1棟

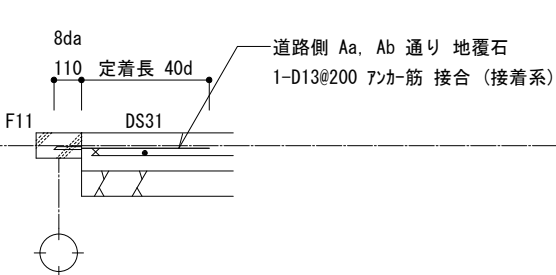
符号	厚さ	位置	短辺方向	長辺方向	備考
			全域	全域	
FS21	200	上端筋	D10 @150	D10 @200	ダブル配筋、主筋＝短辺方向 蔵1棟, 蔵2棟
FS22		下端筋	D10 @150	D10 @200	

<長屋棟>

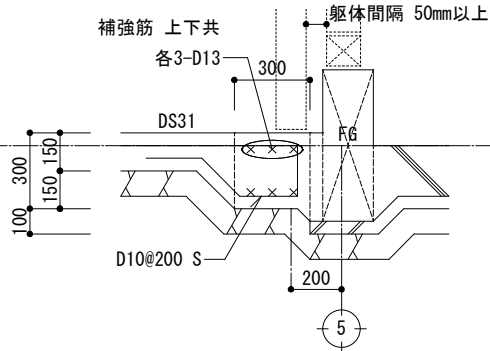
底盤補強 DS31 詳細図 1/30



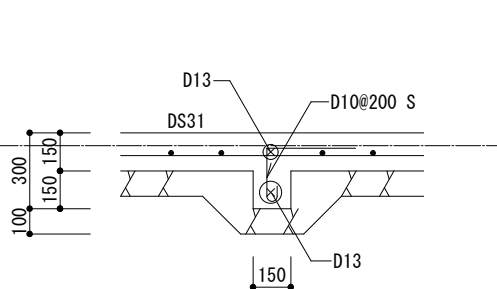
F1 地覆石 接合補強 要領図 1/30



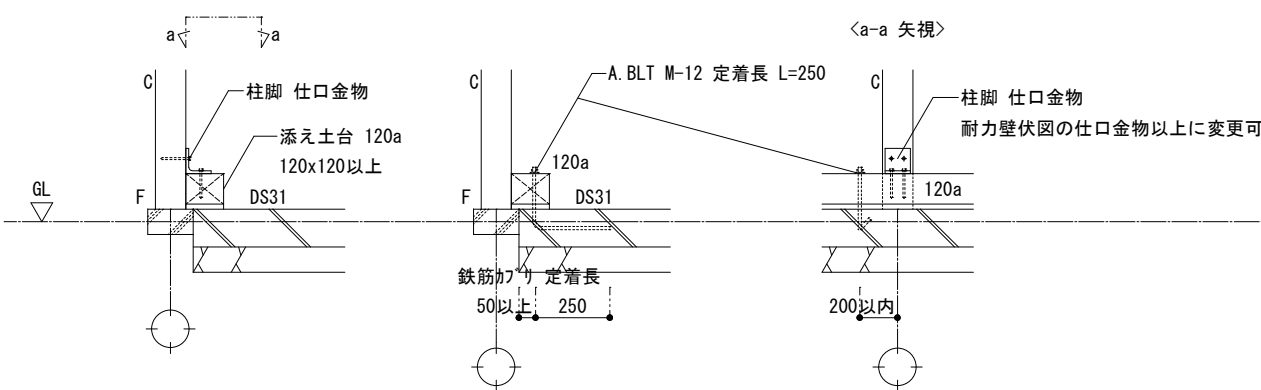
DS31 ｽﾌﾟﾛｰｸ補強 要領図 1/30



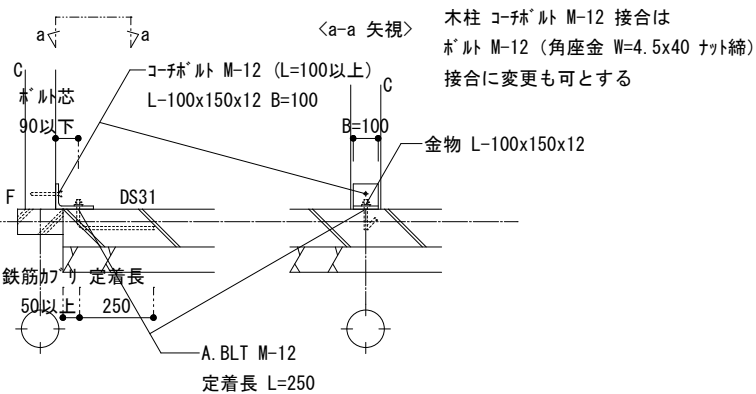
DS31 リﾌ補強 要領図 1/30



添え土台 120a 要領図 1/30



柱脚 基礎緊結型 A2 要領図 1/30



構造：一級建築士 第344060号 構造設計一級建築士 第9920号 石倉 和浩